836
209
3

茅草年録

鬼報録

九十八

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

鬼報録第十一輯

目録

一 原叢馬寄家翁七月朔日戦之書 所畧図
二 七月朔日三日死傷記
三 紀聞 自七月九日一至十一日
四 北越在陣相澤書 大後相弁 送為感状寫本
五 與板在陣所図富寄家翁書 七月二日付
六 武敏七月四日出雲崎口澤田陣営発書
七 同上七月八日発書 仝上
八 仝上七月九日発書 十六日逆
九 両角要右寄神戸神蔵書抄 七月六日
十 武敏寄依田某書 七月八日
十一 北越沛瀬在陣木村帯刀手柬 七月八日
十二 武敏與神戸神蔵書 七月九日
十三 小山藤左所分取長岡賊書十九通写
十四 七月六日戦死 鋭手佐々木作司与照書 袖章一致
十五 北越與板在陣所図富寄家叢書 七月十一日
十六 仝上伊藤庄吉出陣日記抄 自六月六日至七月十七日
十七 紀聞 自七月十六日至十九日
十八 北越出雲崎在陣人重井清八郎書 自六月十八日至仲元紀事

大正 9.5.27 購求

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

十九 武敏世居中元生書等所等書　合二通
二十 合上ノ附長岡稲垣子助歎願書
二一 出雲崎ヨリ在陣西村忠武宛ノ書翰　七月十八日
二二 兵部卿宮ヨリ北越着陣布告書
二三 北陣相沢晃太ヨリノ書状　七月十六日
二四 又　七月十八日
二五 病院被創者御慰労賜物ノ布告　七月十八日
二六 人民御厳重　御沙汰書
二七 追々著陣諸藩兵ヨリ
二八 乱敏七月廿二日従出雲崎宛ノ書翰
二九 全上七月廿五日条書
三十 長岡敗衄第一報　七月廿七日
三一 全第二報紀聞　七月廿八日
三二 小山藤九郎ヨリ其母宛書　七月廿九日夜
三三 久保平馬ヨリ其家翁敗報　七月廿七日付
三四 全第三報紀聞　七月廿九日
　八月二日ノ条
三五 北陣金井弥氏ヨリ書翰　八月朔日付　復長岡
三六 又紀聞　八月四日
三七 渡辺大太郎所聞及某氏所聞敵情報告
三八 金弥自小千谷ヨリ書翰　七月廿八日付
三九 越後瀬波在陣長谷川直興家来ヨリ書翰　七月廿八日
四十 北敵新報　江差長歎書

一北越沖瀬口在陣原厳馬ヨリ其家翁ヘ書翰　七月朔日戦争紀事　七月三日　略図附

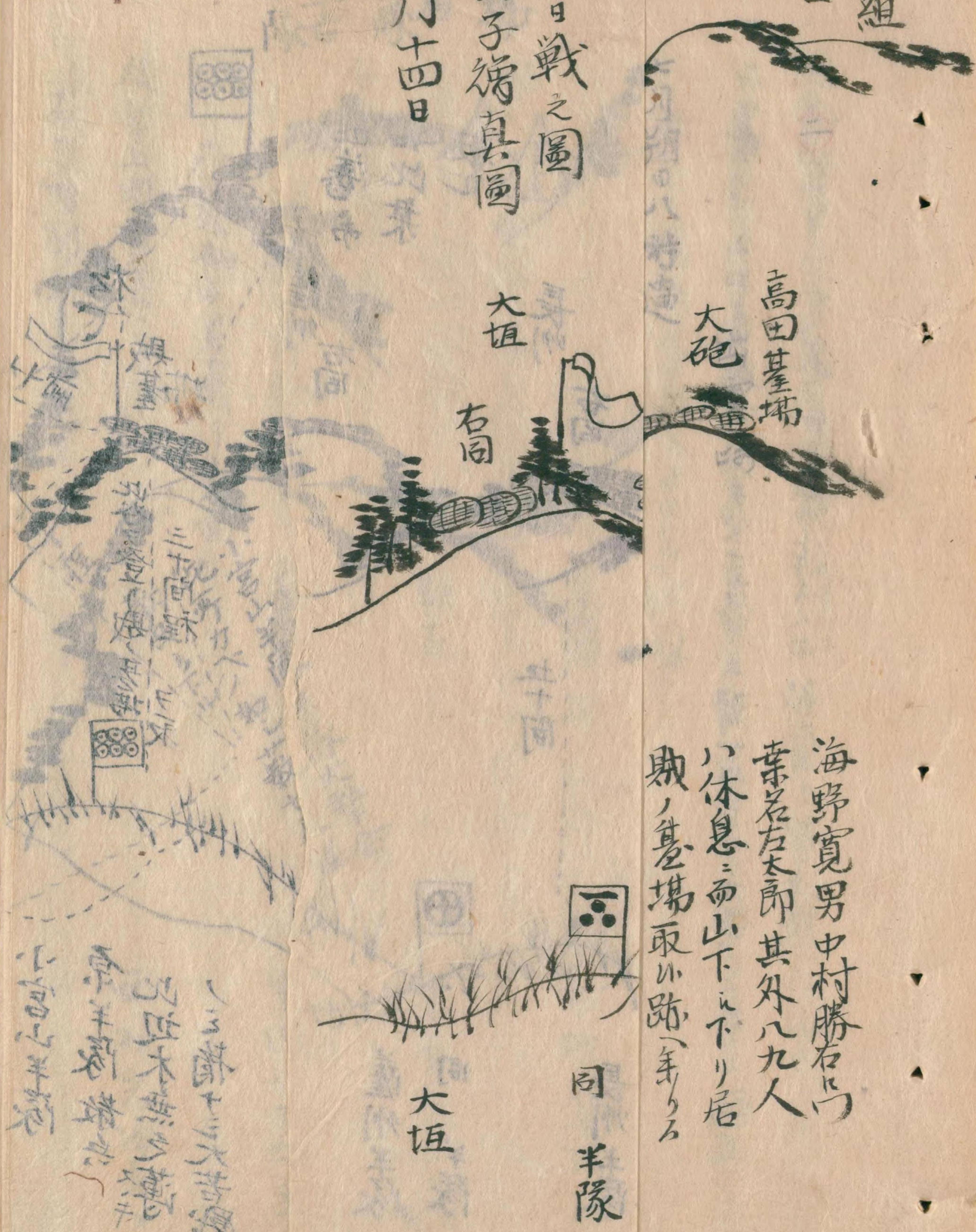
暫然ニシテ七月朔日時頃薩州一小隊　御家老壇場ヘ参リ只今ヨリ長州一小隊大垣一小隊御家人数一小隊右半隊小宮山三吉九半隊真敵戦士十三人ヲ小峯ヲ越シ来ル人数ヲ認ル　御家人数敵ヨリ二丁程手前ニ矢ヲ入撃合相成　私ハ松之木ヨリ這出ル寄手合致一敵ノ玉ハイツヲヤハ之木ニ十二三発参ルハ皆ナ七尺ル皆ノ木ニチカベノ如ク合ヒ私ヨリ連発　駈下リ此ヲイツヲ大手合致ス戦士ハ仙道亮八郎小宮山甲之助坂口右太郎此三人　跡ハ小宮山三吉ト半隊戦士ハ外谷ヨリ下ル小薩州長州大垣ヨリ通ル大手合ニ皆ノ私ノ隊戦士三人仙道小宮山坂口ヨリ通ル敵ト一バン近ク皆ノ衆ト組ム者両人ノ負疵ハ初日ノ負ト九時近大手合敵ト味方崩ル仙道小宮山原坂口四人ト死傷ヲ数ル跡ヲ組ム者多ク私ハ抽鉄砲二挺胴乱一ツ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

李込之玉十発 長玉 玉薬三百発分捕候ニ付是ハ私ニ分捕ニ御座候 御家内人数ニ分
捕ハ鉄砲六挺 玉薬千五百発ほか取御座候 其場ニて玉薬弐ツ 玉一ハイ御座候
錦之玉子二百程も御座候 薩州長州人四人 仙道ハ宮山 私ハ九人ニて卵を天ニ私ハ
十二三程天ニ向ひ引続き個ニ者参りしに首ニ薮天ニて私敵一人迄ニ壁守留メ候
玉ツキハ首ニ御座候 敵ニ急死十二三人御座候 折合之節 私羽織襟カスリ申候 ~~数~~二十
五六近カソイ候 兵共一心を極メ将軍家茂様八幡様武靖様ニ心 ~~積~~ハ祖
之者ニ進撃ヲ旅大音ニて下知致し何事愛宕様八幡様武靖様ニ御守護
請私之兵ニ御顔候へ共 私分捕之品ハ織之宜敷中ニ二ノ丸ニ文書ニ
者揃ハ官軍大ニ勝ち候ニ付 御安心あるべく候 下略
七月三日 高田ニ墓場ニ
此様ニ面白キ事ハ外ニ無御座候 鉱山戦争杯ハ誠ニカルキ事ニ御座候

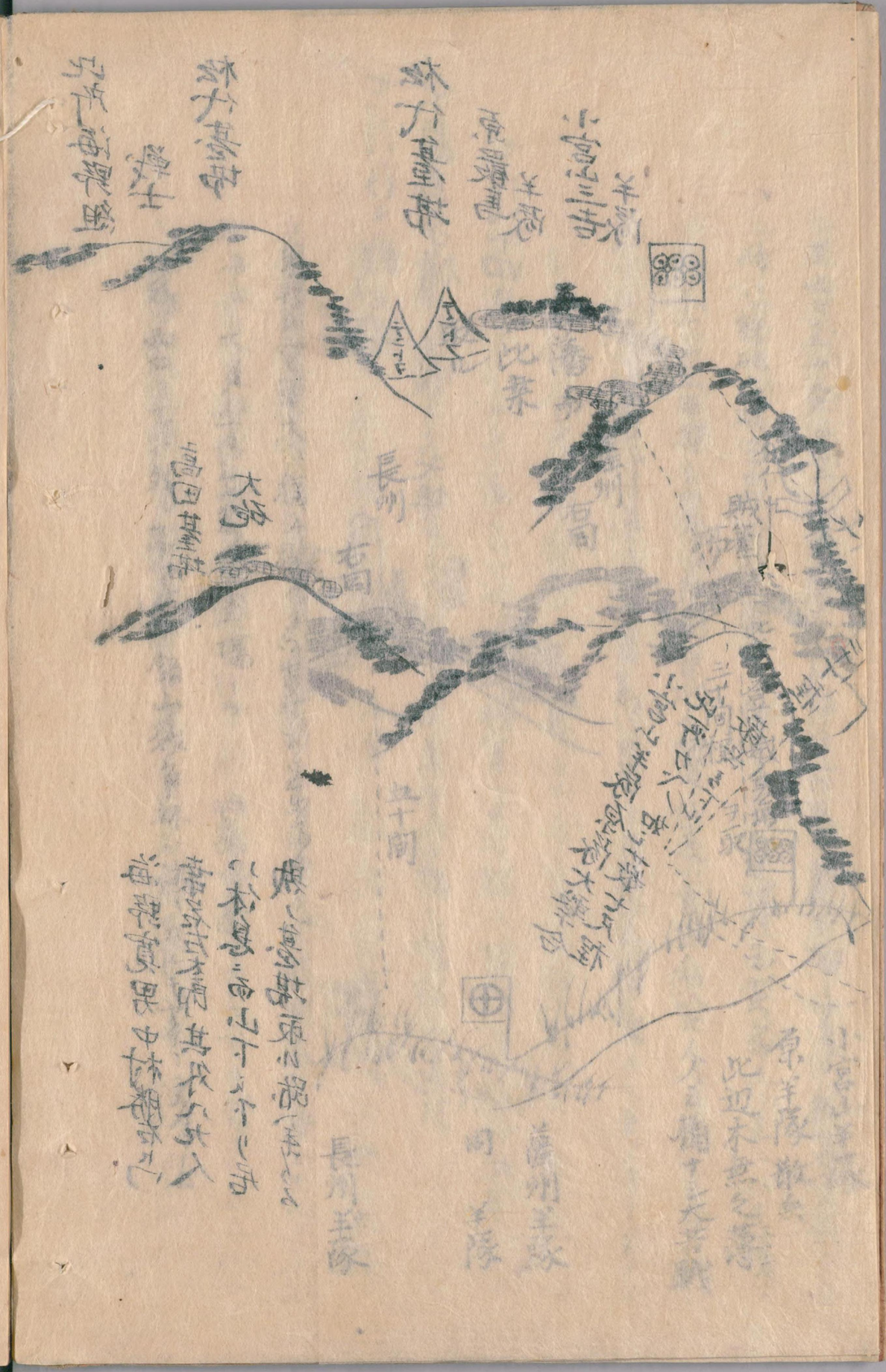
此所海野組戦士
松代墓場

七月朔日戦之図
原厳馬子儒真図
七月十四日



海野寛男 中村勝右門
葉名右太郎 其外八九人
ハ休息ニ而山下ニ下り居
敵ノ墓場取ル跡へ手り候

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用



七月八日夕

二

出雲崎

七月朔日八時過　手負　金児組　西村岩次郎

同三日五時過　討死　金児組　中曽根良作

同日昼時　手負　金児組セ話役　中川八十五郎

原桂仙ゟ差出し書面

腕掌上肉貫通　西村岩次郎

右ニ格別ニ掌ニ至ル

前所骨ヨリ後頭貫通
右之腸中貫通仕り候即死仕候
左臀突肉ハ臈骨外側ニ貫通
右之部分ニ骨神主等ニ破傷無之治療之上ハ歩行等ニ障碍無之と
○矢野氏ハ中美
町田重太郎組
大銃方付
春原孫左衛門

亀崎ハ浦瀬ニ見附ノ間ニ在村名也蓋賊椿澤ノ里ニ對セリ

飛騨基傷ニ七月朔日ニ負羽立二日死去
外ニ口足怪無人 [illegible] ニ負山越組之田
三
一 右出雲侍ニ五番戦士ハ全ク一隊ニ弾薬包七千発を貫し賊壘を破り賊營を奪返逆ニ追ニ帰陣ニ由賊營を寺泊欤

七月九日

一 出雲侍戦争之事ニ在侍之後 [illegible] 五日 七月朔日賊来襲防御苦戦なり
しかし二日ニ至り薄長之新手来かり于官軍更ニ振ニ逆ニ賊を追撃射壘を奪
ん由之 口寺泊近ハ壘程ニ来ル面を得ルよし
一 久保平角朔日松代斧途早追ニ定行 刈川支一日常四日石田ニ於砲声を多
五日ニ於所出ニ付一事を作る時当砲発撃不絶聞ニ付戦アリシ也
一 出雲侍ニ陣 緑川義馬 戦士ハ五日付ニ定ニ来ル也ニ今日近ニ昼夜戦争故
ニ於テ戦ヲ由海ニ夜ニ数ニ夜日夜也
十一日
一 七月十一日朝北陣ハ鈴木堂察 治アラウ 早追ニ宮ニ所報何事ニ来ル
十二日 同夜久保雄ニ追早追ニ北陣ニ定行ヲ以テ
一 北陣中徳田治部左衛門使事 何ニアラウ事ありと近日風ヲセリ 此事五月大四五六三日
ニ苦戦勝利を得ルも此人ニ由て上聞ニ至ル事ニ而申日記ニ見ヘタリ

又ニテ御房人ニ手有りて経候ハ候ヘ共皆夫ナル候ヤ行フ鉄砲ニテ今ニ近ニ残ニテ
有所ハ未タ何レカ不存

一 鈴木説 由岩村ハ少々監察ニ昇進し仁和寺宮親軍ニ属し本藩ニ帰リ誅セラル由也
手ニ為津田菊之助ハ先日出来申候ニ殿ハ病死ス 鈴木ハ岩村附属監察也

一 近頃到着セル神兵隊ハ十津川浪士之情ニ一ツ不足 然ル人数丈ケ浪士ニ如くアリ
ニ致ス国州征伐ナセルトナリ

一 言ハ大ニ半ス金銭多ク熱ク来テ賞ス中蟻川ハ引後レテ死セ
ニ治ハ不足ニ死ヲ以テ防戦セリ 然ルニ御家之ニ一隊[illegible]飯川迄
走ハ夫迄之浮沈モ皆々失ヘタリシト評判之ニ候之トニ云

一 勤王兵之勝利未 松尾迄追ヘシハ也 松尾村（口荷留辺迄）ニ[illegible]迄追レ 若松尾迄ハ
此大戦ニテ了レシトノ[illegible]ハ云 此時中[illegible]首大将[illegible]討死ナリ

[illegible]

此条出雲崎四日町塚新堡ニ於テ多ク訛伝タルナラン歟

一 中村伊多八甲府ニ而中風を病ミ死ス

一 甲府御城代 御免ニ而 ... 畑様 ... 也

一 森末ニ而四二代目堀辺探索ニ付... 白河口之官軍 有勝負

一 ... 思ひ ... 也

一 新発田藩王家ニ故ニ浪士 ... 蔑儀 ... 賊ハ ... 無之

一 与板ニ而牧野様ト与板 野堡賊ニ対塁ス ... 距離只二百間斗之故ニ双方ヨリ

要ぬ土ヲ対シ堅固ニ ... 唯一 ... 戒備 ... 且 ... 月 ... 賊追

まて攻撃シ ... 数人 ... 代り ... 休息 ...

一 松代ニ而 ... 不得 ... 出張 ... 手得 ...

一 ... 別 ... 我 ... 不 ... 賊 ... 伏 ...

一 鈴木ハ七月九日 ... 松代迄 ...

是四時頃也

何時ニ而も談

一人扶持 八人 ... 給

... 人 ... 撰

... 人 ... 支

... 借 ...

... 許

... 一 ... 人 ... 之 ... 深 ... 小千谷

此ヨリ岩沢 下組 中条 信連 馬場田沢下 船橋 ... 大井平 ... 近往

... 行州路ハ ... 通先鋒 ... 所ニ ... 人 ... 八人 ... 作

... 人皆 ... 也 ... 官軍 ... 交 ...

一 道 ... 官府ニ ... 之 ... 微や

一 作 ... 官軍ニ 攻 ... 巨 ... 許 ...

一 与板ニ而 ... 野堡ハ ... 冷 ... 六月 ... 祖 ...

夜ハ ... 八月 ... 也

一 岩村ハ高田勢行営ニ占ル并近軍曹（ソウヒ）轉住シ由ニ候ヘ其ニ依テ寄ル所ニ候ヘ

一 与板ハ牧野隊ニ守る堡ハ山頭ニ水一滴も無之ニ土地ニ婦女ホ持ニ入ル石無之ニ水足ニ其賃ハ搬飯ニ多ク作リ差引ニ有ニ与ニ

一 下陣休息所ニ在ていハ龍岡堡置ニ在ハ河又美酬ニ持ニ柄杓ニ汲ニ自由飲飯ハ搬飯ニ作ル無有ニ又此ニ不定合ニ来ニ又別ニ陽杓ニ与ニ置故堡ニ在ニ不敢出

一 大砲ハ烟ニ見て避ルニ得ニ故後ニ中ニ居ル小院ハ烟ニ入て弾ニ到ル故ニ無避ニ其氏ニ戦ヲ搬飯ニ回リて直近辺ニ耕作ヲ為ニ其ニ戦後ニ作ル後ニ

れ七月初六日ニ稿ニ出候ニ

一 戦後冥川及長沢ニ謀ル行所ニ出ル頃ニ来ル為ニ不出ニ魚類ハ不能ニ犯ニ以て ふ為ニ

も勢ニ有ニ日陣ニ居ル所ニ出ル時ニ行ハ夢由是行所ニ出ル中野ニ到ル故ニ

ニ対シテ之ニ破ルニ至ニ謀ルニ而後ニ及内善実ニ至ルニ是ニ大多倫大獄ニ一ニ就ル

ニ而到リて故ニ悉セリ云ル

四 北越在陣相澤書送 七月六日達

御感状寫 但収立書

會津其外之賊徒共北越處々之要地ニ盤踞シ兇暴猖獗以テ官軍ニ抵抗スル之折柄屢遂勇戰賊徒及掃撃修復感入件成功之次第ハ速ニ可遂

奏聞猶此上一際抽忠勇勉励盡力可有之候仍感状如件

慶應四戊辰年五月

大總督藏

松代藩
隊長中

軍監木呂子善兵衛殿ハ御渡者ニ下ル所ハ薩長御家と兼志候ハ

江城日誌ニ明白ニ有之間別ニ不申上候得共新着[illegible]

一 仁和寺宮東征として近日御到着ニ付右御先キニ而人数ヲ出ス一昨日三小隊
繰込有之昨日川越大黒ノ辺ヘ操出申候右ハ神兵ト申テ官陣札ヲ附
神兵ト申記號ニ御座候是ハ肩ニ菊ノ御紋ヲ縫込罷出候指揮旗ヲ
菊ノ下ニ御座候右三小隊ハ因土二藩ノ兵ト承知仕候越後ヲ追テ操
出申候[illegible]

首秋二日

按江城日誌北征諸藩所賜感状如本文唯薩長ハ本藩再賜ニ
非ス柳十屋夜之連戦ノ労諸藩同スル所ニシテ唯五月十三日薩長二藩突戦シテ多ク死傷アリシ
諸藩ニ抽タル功有ルヲ以テ也 如本藩人衆ノ多諸藩ニ冠タリ水東山上榎山領村田ニ於セル
牧野一小隊[illegible]ノ伊砲[illegible]ニ十日ヨリ十九日ニ至ル連日ノ苦戦ニテハ諸藩
ノカ[illegible]抽タルヲ賞スヘシ 水西三仏生高梨ヲ守ル八九大
ニ[illegible]十八日ヨリ十[illegible] 長岡別隊千田川先渡ノ功諸藩ニ抽タリト云ヘシ 藩別別隊治之
ト云ニ十六日ヨリ十九日ニ至ル連戦[illegible]労アリ 然ニ十日ヨリ連日ノ苦

與板

其戦長岡城[illegible]之功皆藩長ニ帰シテ諸藩不與モノニ似タリ當時実ニ不當ハ勤勞ノ
羽ヲ[illegible]テ実ヲ失ヒタルナリ 此報[illegible]ニ由ルナリ[illegible]是東軍ヲ賊トセシ[illegible]者[illegible]
故ニ右之ハ[illegible]ノ者所謂[illegible]余ラ以テ視之ハ失其実ノ者[illegible]実ヲ不顧[illegible]
[illegible]之ヲ岩村ニ[illegible]
宜セシメス云爾

○ 與板在陣所同家之臣家其父書状 七月二日付

[illegible]

一 當表[illegible]朝廷[illegible]隣境要樞之地故官軍迎[illegible]戦力成功[illegible]
[illegible]

六月

一 先月廿一日夜賊兵富山陣営ヘ七十人程接戦ニ討來リ候得共討取候ニ付
打出先ニ勝利ヲ相成申候
一 有栖川宮 因土芸備藩兵ヲ以テ致ニ付而速兵庫表ヘ出帆ノ越後路ヘ御出張之義
御沙汰之由
一 春嶽公容堂公 奥羽白川口ヘ御出馬之積相成候由
一 六月廿三日 朝廷ニ官軍一同ヘ武運長久之御祈ニ付神酒御供ニ付御菓彩
暑中為御見舞ニ付
一 奥羽白川口ヨリ三里程内一箇所之新城築キ会津藩兵を以城ヘ入候由致居候
所ニ而此節ハ会津兵差戻入候之由ニ付 官軍ヲ強ク攻入候ヘとも右藩
強ク防戦之由此表ヘハ会藩数千人討出候由 長岡侯も会津近辺ニ而防戦之由
未タ宜敷程之由ニ相成候由 此表之数も多分 長岡ニ而 会津

米沢ニも
一 賊兵 官軍を官賊と唱申候由
一 新発田侯於我藩兵 朝廷より 勤王之誠心相見へ候得共官軍弥ニ迎ヘ申候而
官軍ニ属 賊徒追捕之段 宮ニ効相顕レ候ニ付 依而宮ニも有之由ニ御座候
候ニ付太政官日誌ニも御座候
一 奥羽結城両藩徳川家東帰被仰候 謹慎ヘ候 右両藩全ク会津ニ與し益
逆謀ニ付官位被召上候段 太政官日誌ニ御座候
一 村松之勤王佐幕党之有之 勤王ハ分之様子ニ御座候 会津同様之賊
堀右衛門三郎と云者二千石之由 右人之家禄を没収 何分年例由此節村松ニ稀
ニ而白状致候
一 長岡侯人数三万人程引率ニ而此表ヘ出馬有之候由 説明相成申候 右程此表賊

兵侵来寄ニ付而ハ被仰出候由

一 今議所之席順ハ 亭之方 薩長相代ハ 加州芸山尾州之方
右加州ニ而尾州加州ハ御当家ヘ何事も不申候ハ付而之事ニ付其外之次第ニ付 御
当家大藩ニ抽て筆頭之者ニ而 薩長之者持 総督府よりの命令ニ而も
多兵被致候 御当家より加州之次席人撰之薩長ハ相頼廿人ニ而宜敷道之
出兵致候 以来之候事ニ候得共 御当家之戦争之毎度諸人之克
勝利之手柄ゆゑ甚之不審無之千万之事ニ而 鉄砲之者之鍛錬不致実地も
甚之不案内ニ而之事 只々相代勢ハ之候之近 強勝候之者ニ而
度々之戦争故錦旗相頼来所之不安来り尽忠報国十分之盡力之主
ハ甚之侵入ニ付先ハ越ニ而ハ相頼当藩之近 数度之 御感状ニ而も
得候ても何様御沙汰之一向出不申候又 御感状出申候

大総督様より別紙写之通 御感状下賜候ハ誠以 御家之御美目光悦
之至右之全く以之数一統大勝利ニ而勇戦有之故之事感銘之至り此上益早々
御在所ニ而御言上尚此上猶々勉励可有之候書面之事
御代 会津並相之賊徒之 見家
右之御感状昨日沙汰有之候 御山本数度有之候 一同御沙汰候之
之而指揮役
岸田何之進

右六月廿四日之
右之御諸家ニ而之事ニ而手柄中之甚之違無之事 此程諸家ハ実効
相立候数頼之由申此程是下 筆状之よ芳宇川上之中之何之而尤右之事ニ
多之事ニ而候 ○昨日之四候ハ何分書付載置候

一 酒味噌ハ此程之無之候 深夜兵粮ハ餅 赤飯 焼餅 ○鍋 等之

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

出雲崎

穿もなく紙も無之故悪筆ニ而書差上申候以上

（六）武敏 七月四日北越澤田陣営ニ而発書四月十七日達　大総督御蔵章写添

扨 御家御人数出雲崎ニ出張之分ハ田村辺戦争後十数軍ニ相成居応援ニ被参候処
之道ハ宮川辺ニ而被為在候処（六月）先月廿四日出雲崎ゟ東方一里余隔而澤田村辺
高田加州等之持場其他ニ茂辺之台場ヘ兵を出し先応援致し居
本営より被遣則出張諸台場砲兵之応援相成格別面白キ戦争
も無御座候台場ニ廿六日事故（六月）明廿五日澤田村ニ引揚当府之之
戦争様子相硯ヒ居候処同夜七雲崎ゟ長岡への通路鍬ヶ峯（加州与板本之持也）
ニ賊夜襲之様子有之ニ付人数出兵相通候処迄七兵ハ長岡口
之方ハ長之小隊為応援出張致之 御家御人数ハ直様澤田ニ
引揚其後ハ所ニは交義之作候得諸台場見廻り未為差義も無御

御経塚戦

座候賊之出役有之候得共被是奔走其虚を衝くを心掛ケ居右様之場合ニ
日々空費致居候処（七月）本月朔日澤田ゟ一ト山越藤巻ニ出張致シ居通達
其上田所之軍議決定ニ而高山四方一望之地御経塚与申ニ台場を築
度旨ニ而先従我兵ヲ 御家御人数を致し候得共藤巻ゟ又一山越
柳ノ木村江集之賊鋭九連発致し候得共何事も無之薩摩御伏前御経塚ヲ
相硯ひ左右ヘも賊五六人ニ而張致し居候得共連発致し候得共賊敵之出方ヲ
見分ケ候得共何分其右ニ連発後直ニ下山之体ニ付速ニ御経塚ニ乗入
兼而用意之土俵ヲ運送し暫時ニ砲塁ヲ築之候得共僅二丁余向ニ
松藤之右賊知ル事無し唯（宮田ノ山ノ砲台也）高田ノ持場ヘ向ヘ発砲致居ト閉不意ニ右
ヘ大砲ヲ打込（高田ノ大砲之）砲場スル所ヲ小流打放大戦争ニ相成直ニ其場ヲ取
替ヘ相成日々戦争（七月）二日ニハ即死一人手負（西村岩次郎）（七月）三日ニ同一人打死一人手負之両（中曽根三作）（中川八十五郎）

大砲附之者一人ニ負人夫二人ニ負ハ事係賊之要地ヲ奪ひ其愉快之事ニ
長岡口も過日三大隊之人数未増納日ハ進撃何所も皮軍勝利之由ニ
当方新多次第兵威ト処ニ義め何の事ニ
七月四日　　京都右会者
当し本文賊之要地ヲ取り基偽ニ築キ故諸基偽も右ニ倣ひ採用とるゝ如く
ニ日ニ未進之ゆるゝ以来ニ　別紙実ニ難有とも厚とも其ニ恐悦
之様ニ以多深く落刻仕ハ多弥者ニ勇奮ニ仕るゝ以来ト　別紙前ニ所載
以感状之略

七　同上七月八日発書同十七日達
初当方諸坂口何れも一日当夜し果敢ニ皮ニ奪ハ諸方ニ
分配賊と同等之人数位ニ之ハ双方基偽ニ拠り砲戦致しトのミ此上進撃を皮
軍ノ場ニ上ニ中ニ有ニ此偽人数之ニ有も先月初ニ之ニ活ニ有一攻口一百人之兵

を来ニ未加ニ不申唯日ニ基偽ニ至ニ并会退屈之事ニ有ニ賊此方ニ田望
ニ對し其ヘハ姉人ニ連れ登り屋夜大鼓ニ而拓ニ并鳴し聖敬致し
居ト唯今ニ分ニ至ニ降雪ニ候ニ付追ニ鼓後一同陣定ハ如何ニ来る
ニ其ニもの外ニ本当ニ且此方御手偽ハ実要衝ニ他ニ油断不成偽ニ置ニ
賊ホ是迄ハ今ニ并也も不仕り致し此方ニ至ニ何手偽也来りるより掛底ニ
弾薬ニ以構頻ニ并也、当基場中ニ何日ニ為人并死ニ負ニ二人
以来ニ当田ニ至も士ニ一人并死ニ候ニ其ニ為ニ二人ニ并ト刻追ニ砲臺
も丈夫ニ未成先此後ハ格別ニ痛ハ為ニ当夜ニ
一　近日冷気弾薬此辺ニ至ニ当峯取先便何賜り之事ニ何当袖文
殊当袖ホ恐迄新多ハケツトニ得ひ候ニ兵威詰ニ完サ恐像仕し
就事を思ニ秘ニ羽織ニも仕立マンテルと襟代りツボンを御新調

此節サヤトアル下ヨリ立候ハヽ初先立ノ先後一ヶ所ニテ二テル共ニ只ハ見カヘ
此度戦場ニ而後レ候ニ付之沙汰有之候ニ付先年ヨリ
一 七月八日　ニ而取合有之候
当ル元填流ニ功ナ處心得ニ十六発或ハ十三発七発ホノ間ニも一発
ホニ後填流便利ニ而賊ニも追ニ而相討も有之御新ニ而成
是ハ頃元服人ホニも当ル之込元流ヲ以テ十ハ三四ケ之外水平ニ而取ル来
リ申候先ニ元込ヘ取替申候
(八) 同上七月九日所発十六日達
○今日西園寺殿御廻リ相成ル
此日負見但馬守討死之趣上聞ニ達シ有一書其下後何も不成其後
初先月十四日大里迄戦争之節田総督役并西面ノ差引不及業ニ付
御蔵前ニ而何卒如同藩中ニ功も有之候格別御賞大ニ而所
置ニ付指揮役ニ而除卒伍ニ被賜有他日之功待候様ニ可申聞旨ニ而御座候御沙汰
有之既去廿四日御達ニ相成候既ニ二時八ツ頃ヨリ大里之兵賊ニ賊
潜行し銃長刀ホニ而相廻り突初而砲戦致候も列ニ而出ニ而河原兼
ル兼ル砲ヘ仕ル事ニ而其之者ヲ取ル短兵接戦ニ相成候處八ツ過迄其
辺所ニ而接戦後ニ賊大敗ニ而成其節高田藩大隊激戦し討死
手負之人数或ハ一士銃丸ハツ手ニ受ケ有之由私等ニ而一命ニ相拘
候由又一士ハ賊ニ而人ヲ切リ刀も鍔ニ而成候由有之由一士ハ
賊其外不残追撃シ賊ヲ追ヒ既ニ首ヲ取候と存申候
ヲ後ロヨリ衣服掛ケ切られ一中之痛手ニ而候時節彼之第田も
卒伍中ニ在テ激戦ニ深手之負ヒ其事ニ而候賊ヲモ八十人も

折取る由已夜軍も進て未詳過日七周日へ三大隊あり候一此七日
加州人数二百人も長岡之方へ等しく中當方攻口へも百人程未詳と了
る今明日より渦島之兵卒若干の後ゆゑ先ず諸方ゆゑも未詳なし長州も
新兵の人数四ヶ所ニ置き

一 新潟へは仙臺上杉ホ之兵七張数二倍致し居り中又同所沖ニ英艦三艘
碇泊之由也雲崎沖ニ在泊スル桜津丸ニも英人三人在船之由是は其実を
不得ゆゑ置き此節潮ニ新潟ハ也雲崎ニ船路開ケ之事英艦は何之
有隙も無之由又此方之何程場ニ對し賊黒布ニフロイセ二人三人
在之進退ヲ為すの由競兵ゆゑ置き

一 當時御親兵と称しさめ何なる所ハ也て初改めて唱へ之事ハ長岡ニ在
陣中之由未ニ其実情ニ不得在来るまゝ此ニ日本ニ有用之事ハ程ゆゑ迎
山ニ在陣及可ニ在ハ聞ハ作し　七月九日

七月朔日半蔵金日礼峠ホ数所戦争

ソ 右地図

ツ 比礼嶺荷頃地方勢陣図

九 北越在陳両角要塞門寄神戸神蔵事数　七月六日
此戦争ニ次第從同無長岡義帝ニ入ル　[illegible]
将亦當表之形勢定る法学及も一ヶ所ニ長岡落城以来今日迄戦争更ニ無後ニ
次第既ニ當朔日猶又大戦争何度ハ當桂澤ハ中ニ年来之方ニ當リ半蔵金村
御家ハ人数　加州　長州　持立峠　加州　飯山　辰巳之方目禮峠　御家　薩州　宮田　卯之方亦
坂山　薩州　大垣　長州　丑寅之方亀崎村字名千場　法富ハ人数　且亦長岡ハ丑寅
之方ニ寺里ハ宮下村　富山　長州　富崎　加州　長州　高田　亀貝　薩州　加州　大垣　荒増左之通
然処去月廿九日夜賊兼ニ手筈ニ不意ニ龍衣来四方八方ニ押寄処味方も
一時ニ時之声黒煙りの中ニ打ちまくり後ニ半蔵金之方御家勝利賊之砲臺
三ヶ所ニ至最日禮之方義右同所宮下村富嶋之方も右同所之処猶又引取中ハ
此度も賊敵も必至ニ覚悟と未見て殊之外強暴ニして人ニ以戦争宮中ニ
以慶俊侯去月三日ニ今日迄二十日降ニ再成中ハ昼夜之戦ひ実ニ寸暇之休息

之無之次第ニ而探索いたし候處最早御家来共當時八方より分隊ニ而出兵ニ付
別ニ諸役方ハ実ニ以而目多ニ而只今御備仕候ニ付出兵之外ニ御座候御様子ニ而中ニ付
且又分隊左之通
西田村浦和隊　野尻村　半蔵金村　日禮峠
桂沢村　大板　出雲崎
右七ヶ所より出張隊之者共江加勢仕候將又追々加州勢薩州干城隊大垣藩兵
之官軍勢は節目場ニ着之兵隊は長岡町并石田蔵王等ハ江戸両国浅草辺ニ
横濱ニ似たりとやら偖は兵も追々ニ而進軍之兵隊ハ何分ニ而八三条新潟へ
付候得共諸家之諸軍或ハ小諸藩等ニ而相見候得共何分兵隊萬一仕合之儀ニ付
出候追々ニ而ハ是又甲府其外兵隊も追々出兵之処御座候由何分之儀ニ御座候
候之處追々兵隊分も有之候得共遠へ相成候由ニ而及戦争ニ付候由之
右之通り申上候　七月二日

十 武藏寄依田某書　七月八日

扨長岡藩依後賊勢并僧人数も無之之様子ニ而攻伐之間御果敢無之候得共
之長陣ニ而兵隊共如何にも皆々悪敷之至ひにて難法ニ　御出之御義右ニ付て皆難
度至候處在仕候ニ追々冷涼ニ相成候而兵隊共仕候而其者共も真紙ニ而隔有之候ニ而流
砲ニ而も不足事ニ而あらは半夜之事故ニ付一向ニ無之も先手之者共一時ニ逢ニて
進く今ニ中之戦後一同引退之處何分ニ而在候而当所新潟ニ而御備仕候上
杖ニ而兵も進退之上ニ英船ニ而候處又ニ致船をも是ニ而其事も兼勤ニ
ふつ々々と定候　天朝より之陛下之御威光之征伐を以　何卒ニ而是無之
大敵ニ北征人数も錦旗越後ニ而兵事ニ相成候而当地ハ加勢ニ而追て
出陣仕候得共速ニ付候は兵隊ニ候而作戦仕候ニ相成候様申候ニ付
之逆先月下旬大敗戦争之後手之節兼て申候様精撰役ニ而無除事

仙ニ貽斥ニテ[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月廿二日曉
福島戦
両要所送図可
併見

十二 北越浦瀬在陣木村 帯刀 手当 七月八日

六月廿二日 私ハ五人 仙道 坂口又 小出 川崎 私 ニテ一夜日休息として陣所ニ下リ浦瀬村下陣ニ
止宿ニ而砲声近く写ヘハ有見廻リハ而隣村宮下村ニテ再三刺出火砲声ヘリ下ハ有重ニ
仕度用意ニ而長州本陣ニ何程ニ勢ハリとも川瀬村前後ハ兵固メ呉ト横ト内順
助ニ仁ニ而頼ニハ有 病人近ニ御出戦士九人御ニ者十弐三人長州ニテ十人余五ニ而程ヘ
分配ニ而夜半過大雨ニ歌味方も有リ恐ト福島ト申而ニ固メハ富山加州人数敵ニ
やふれ富山ハ長岡近く近ハ有ニ而下村近押寄ハ半富山加州人数十三四人即死
ニ賀留程有ニ而右 浦瀬 有人数十勢長岡ヘ申戦長州人数数兵隊二十五人四ツ
道ニ浦瀬ヘ夜明頃着夫ニ而大銃ナボレオン五発打ケ付ハヘ在届ニ不予
間ニ八丁計リニハ長州数兵隊本道ニ進ニ私共五六人ヘ四ツ所ニ横手ニ内
のあぜ内の中進ニ打ヘ在敵ハ基場俄ニ畳土俵ニテ[illegible]

雨のふるごとく打也しか共追々二丁程近く本道横合追候所へハ賊兵敗走し福
島へ退キ候近所ニ而味方長州ニ而壱人分捕いたしけるに其首を御家士へ差
人もけがあり欲ニ三人死人有之けがハ余り無之つゝ場より退き追手いたし
し人数引上之陣ニ而追々薩長之人数多勢相成場所へ出兵凡三百八十余
之近大戦格別之勝敗なし薩長加州人数之内二十人程手負のよし

六月廿三日
半蔵金

一 出雲崎へも薩州人数二小隊程差向ニ而横手より大勝利之由委細ハ不分
不分十八九日頃之事ニ而此節賊兵七十人程ト申

一 廿三日半蔵金ニ而蝦川組大苦戦長州ニ而横手より勝利尾州之内も一同蝦川組と相成候
小家も焼候とも引ニ而有蝦川組苦戦ニ而長州ニハ右之場所ニ而本陣を押立て居り申候
其外松代兵も多く入込ミ居候由人を分ち此家へ懸りニ而戦ひ候処四三方ニ敵ニ出
行られ候ハ余程苦戦之由薩摩ハ屍を取れ候之旨命ニハ別条無之由

格別之軍事ハ無之命ニハ別条無之よし

一 かつし沢亀崎へも八番隊大砲方大高来進候所凡七八日始日々夜々相分し打合候へ
共双方大ニ丈夫ニ而甚遠場ニ而勝敗無之敵陣之前五丁位之所ニ四斤砲位大砲を数々
打込甚遠くニ而さく無之わかりかね廿八日ニ亀崎へ渡番之浪衛ニ而要
害ニ而之戦致候処長州之大銃二発当り申候

七月朔日
浦瀬　栃窪嶺
攻戦

一 追々薩長之人数五百人程も差入ニ而陣取いたし山ノ手総軍押し連戦いたし一方
ニ軍議有之候ニ付七月朔日暁七ツ時分用意出兵致し候処接近を存したる所へ
之上休息いたし浦瀬村之陣へ押寄せ候所人も不分相果候処も不存分私共十弐人
小宮山之台より余程三番小銃組十六人薩州其外人一隊之相成栃窪峠賊兵
之屯所へ進ミ道を進み候所ハ近き一里程見通し有之れハ十三四丁程ニ敵会
近く進ミ候処夜明ケ敵もも強ク打ち候程ハ味方ハ打申此家小銃組ハ

是恰去人共称をかすられ夫々追ふ追ふ家誠ニ新傷ニ而ゆづり家棲態心條
七八人も有ニ而藪の中極く急の所衛下りに四自然と人数二ヶ別れ之ゆゑ
一ノ手ハ又山の所称へ上り谷戦ニて敵ニ二屋傷の横を打武丁程一手ハ臺傷ニ
正面より進ニ一丁足ニ寸近進ニ打大頃ニ人数ハ少しもそど久家が四丁
程ゆ打追ニ進む長州人数二千人程裏ゆゑ山ゆゑ四丁程ゆ打出し四ツ半時頃
終ニ一ニ臺傷二ヶ所私ニ二家込申ト薩州ハ敵のうしろ進ニ出とて廻りに
ハ傷ふりしかし又引返し私ニ之あとへつゝきゆゑ長州裏ゆ進ニ二ヶ
所臺傷打反賊兵谷へ下りこゝろびつゆきつ所進申ト小銃も六七挺星弾茶茶
二茶玉手三百斗分反賊八人即死怪家人二千人余四尾ト由不ニ血落でお
り何人位ハ知れ兼申ト大頃ニて士分即死去人怪家去人まこと所死人ニ人
御家四人数ニ而士分けゆ無ニ四足恒けゆ人三人皆浅手ゆり長州ニ怪家

去人夫々相こゝろとゆ追近四人数薩長一回ニ大和見として巡見時ト不十武
三ヶ所臺傷小屋ニ捨賊去人も居りゆゑ処申ト有又ニ杉窪峠是近賊ニ
築立ト臺傷出し右ニ守り居申ト薩長も所ニ回ゆ居先六日近ハ戦
争し無ニ而半蔵金ニ方ハサし押出し手成ハ様なゝ也ハ与板口出雲崎ゆつ
ゆゑつゝ傷追ハ追ニ事ハ未ニ事朔日ニハつゝ傷戦大岩薩長人数即
死千武人けが人二十程ゆゑ敵ニ方即死二千人程けが人何程ハ半蔵金
ニ方ゆ杉尾とゆ所を先へ押ゆとゆゑ杉尾ニ敵ニ手疎有多く敵居当
を押しゆ人ハ山ニ方ハ自然と引ニ事一ツ日ニハ押しゆ様ニなりこゝろト
半蔵金根来ニ近杉窪百余ニ近一日二日の戦賊九千人程即死とゆゑ
一 當方へ仁和寺宮様三千人ニ兵四引連御追發とゆゑ四ツ手四神軍浦
御村へ為ニ六日前ニ而居ゆ

一 奥州白川口薩長肥家肥後之人数二万七里程先へ揺え下而白川口へハ仙台ニて
人数多分出居会津も出張居候之を強く仙台之人数よろしくしもちむ
仙台ハ先年岐会津之人数見出し其外ハ不残会津之同意と了解ハ参合而いら
しや循行新発田も米沢も会津長岡加勢人数見出しけるよし
是ハ追て官軍進こけれハ敵対いたしけれハふとるよ

一 此程之一戦ニていつれも沢山手負てつく人不皆うつぶさら
いくしやと沢山ニてしかいる疵傷るとそハ右の不平和手引ハ何とも
相成らずしえてより引そハちと見合て一戦兵ありてしかしだんぶ
くろつるる人利ハよろしく長もよろしく了ふ参り之而ハ何ら
さも相ゆつりとハいつれ休息之節長崎之儀後宜しくこの了幸より
しり不会否それいくらかへハよろしく

一 白河ハ此度沢山之手ハ委細に承候しらえ廿しらそ勝負ちなみか了ト奥羽
手ハぶらく引きりふら都る隣長より裁けるのふしへハ了表之かた後くこくる
ハ会津一手ちるそふつるを申来り此者もよくよくなる関連心も一つ了之薩長
之先白衛く一度私之陣屋へ見廻て此候てる戦争之始末も伝言て是
も日来え候横ハあるたも入りの兵乃了長州薩州ともハ隣長較合しも強
くるの骨折次第之寄ハるハ日之夜之巡ていつく兵図もいつくやけ

一 薩州之二中隊者二日二ヵ之沢参り一ヵ者余ハ向ひ兵参り長州二中隊
会津八日相馬之来りて長州尚外へ探え手末之ハつて勝負兵迄
手勝大銃二十門二て手餅りやとり中へ長州之後了夢谋より人旅しけり
左も此け気も除了るよしハ人とる候ト二中隊より之ハ三百二千人之

此尾ニ一香ニて有侍候

十二 [illegible] 七月九日

[illegible] 北征も案外果敢なる當年中に成後一四平定を賞[illegible]
[illegible] 賊徒[illegible]敗
走器械を失ひ多分の死傷を[illegible]故官軍追ふ余り猶[illegible]
[illegible] 賊方今[illegible]陣業[illegible]陣屋[illegible]以て土王[illegible]海上[illegible]進撃[illegible]心を用ひ大
[illegible]
[illegible]
七月九日

右[illegible]

十三 小山藩左兵衛於

再捕書十九通写

一 若松行

一 ミニー流　五十挺

一 浮藥四五万程急速お[illegible]
但若市[illegible]合藥[illegible]
一 クロン七万程[illegible]
一 和十文玉千粒[illegible]
一 ヘットキャラン[illegible]
一 [illegible]二[illegible]
一 アブラ[illegible]

一 善和表　上様御写略御賀表御[illegible]ニ儀ハ善和ニ賤上下ニ意分ニ出ル程
感激哀情イタメス意候　右之様[illegible]得下お傳下ニ候事
一 先善之分ケ、致ニ勤励各年齢ゟ一倍ぬ分ニ候事
但　大殿様へ於上御用人ゟ[illegible]ニ可遂候事
一 何様ニ年々至国ニ為ト傍利欲ニ[illegible]八十一ノ歟　御外[illegible]ニ候事
一 主従ニ在ゆる御從し万人ニ[illegible]兵法学文所[illegible]之事
此末裂度ニ付
二 覚
一 右殿様　上様御機嫌伺　御[illegible]候事
一 殿様御所ニ為ハ御小姓千ニ鉄砲ニ而御[illegible]候事
一 大殿様ニ御小姓[illegible]砲ニ[illegible]候と御
お傳[illegible]ニ成候事

一 右殿様思召ニ御小姓近[illegible]ハ雑有之ニ[illegible]婦人[illegible]
老弱[illegible]
[illegible]一ニ成候事
一 右殿様[illegible]一統[illegible]一ニ成事
[illegible]武士ニ[illegible]一同[illegible]
[illegible]一[illegible]増恩[illegible]
辰
五月十七日　河井[illegible]
右[illegible]
三
口上
植田十兵衛様　稲葉文左衛門
昨日一[illegible]二棹[illegible]封印[illegible]一
[illegible]

賊称官軍曰賊軍

[illegible]

四

[illegible]

[illegible]

五

[illegible]

六

[illegible]

所令諸藩幾何

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

松尾本(除)

右之通り申上候様ニ御座候以上

山本義直(年号)

七
御奉行
御宝(?)
山岸秀之助様

吉田忠衛門
鈴木甚右衛門

此度銭相場之儀ニ付茶屋共[illegible]
御奉行所[illegible]此度[illegible]
茶屋共[illegible]

八
覚

一 酒(?)弐斗　一 銀壱両(?)
右ハ松尾村御奉行様[illegible]
右之通り[illegible]上
松尾村
[illegible]方
中村
御奉行
御[illegible]

森上村出張

九
先ニ森上村へ出張[illegible]
右之通り[illegible]

十
中川文[illegible]様
山岸秀之助様
[illegible]

茶屋

先刻[illegible]書状[illegible]
[illegible]森上[illegible]茶屋[illegible]
[illegible]

詰(め)ニ付(か)

右之通り[illegible]

十一
中村宝(?)田居
山岸秀之助様
[illegible]

以上

松尾絵図

[illegible]松尾[illegible]絵図[illegible]

十三

植田十兵衛　紡績

十四

物　語　弥兵衛
和仙　吉中次　仕七
荻　野　平
萩　吉　平
　　無　氏

文　蔵
鏡　助　平
伊　平
紡　平
吉　平
新　平
大和平
仙　平
弥　平
二郎次
吉　平
由　平
権　平
十太平
吉　平
久　平
権　平
吉　平
権　平
作　平
吉　平
吉　平
吉　平
久馬平

十四

川崎信次郎　坂田浪蔵　○小嶋自右衛門（大砲隊頭取）　十二月廿日討死○菊池與三郎

杉　小太郎　丸田彦之丞　六月十一日横山ニて討死○横山喜之進　古嶋丈友十郎

伴　孫四郎　酒井角蔵　つまり手疵○横山福之丞　人足共弐 弥七

川嶋良之助　山本義之助　六月十一日大谷ニて手疵○奥山喜之助　大石蔵

陶山郎左衛門　中川文蔵　八月六日横山ニて手疵○近藤右八郎　川済 次郎吉 十人

篠塚嘉左衛門　長谷川孫四郎　○和宮方不付 本多弥三郎　〆右隊く福之助

菅野武之丞　○浦辺隊勘定方 草川友弥　〃良太郎付 足軽　十八人内 乙山近藤七郎手

十五

一 寺　本陣 二十六人　一 寺　萩野隊 三十人

一 本多良之助　〃 勘定方 九人　一 唐人屋　浦辺隊 二十九人

此 五十四人

一 寿光寺　横山隊 十二人　一 松本之助　酒井隊 三十六人

一 善兵衛　小嶋隊 四十人　一 東六 播磨之助　白川嶋隊 三十二人

一 橋爪久之助　浦田隊 二十八人　一 六之助　小沢隊 五十六人

一 童之助　佐倉隊 七人　小穴 新之助 ?人

〆 三百十六人

○此写 以上写

右書十余通観るに足るものなしと雖も忠賊情を察するの一端也因て之を存す

以為らく伝播するを一時禁じ猥に賊書を披閲するを禁せさるは唯法令疎漏

なるのみならす或は不測の禍害を生すへし

十六

七月六日　荷頂口陣ヶ岡山ニて戦死　一番小隊（長川組）

戦士金沢源鏡子某細幸之を葬る 歌

そせきやる後のうゝみと求まてる
わり寄し後の大和さゝらを
佐々木作自言照

五 北越与板在陣に国富之進寄其家叢書 七月十一日

畧前次少々多別条與板原村相守り同様戦争仕居候處當八日尾弘大番組
と交代致し牧野組ハ下條ゝ右衛門外此節与板中町宿陣へ引取休息罷在候
右下陣ハ赤久田清助と申候追て原村へ亦ゝ尾州ゝ六父米田ゝ門説ゝ罷ゝ得共何
へ進軍ゝ相成哉相知し不申候内板此節長岡口出雲崎迄し此節同様 唯日与
板城裏續き山陣ヶ崎味方臺場之物ゝ罷ゝ候處右山ゝハ薩弘長弘加州
尾弘富山飯山松代 板柱組 其外諸家味方右臺場峯續き與板ゟ出雲
崎迄三里之間臺場ゟ休息小屋民家ゝ續き候やう与板ゟ長岡口板
尾迄六里是も同様臺場ゟ續き居申候右板尾ゟ出雲崎迄十里四方ゟ
戦争ゝ四度ト間官軍人數數多出張各四度ト得ゝ進軍ゝ相成不申候
此程中ゝ上ト大総督ハ有栖川宮ゝ各四度ゟ通ゝ仁和寺宮関原迄

先陣ニ相成ト説ヲ以テ得共誠ニ以無板ニ長岡ニ事不相弁長岡ニ
ニ山雲ニ御子ヲ知テ予ニ虚説ヲ以テ長加君侯ヲ如何哉長加人ニ弱
ヲ得ル實説ヲ者ヲ有テ虚説ヲ者ヲ有之實否相分不了次第哉
彦ヲ関原ニ先手人数ヲ出シ先ヲ相成ト風説ヲ以テ右ヲ實否不相弁不
ヤト次第故ニ遠察ニ成下

一 羽州庄内領ヲ西洋ガ海上ニ玉薬運送改革ニ官軍ニ充相中ト由

一 白川口ニ仙臺ヲ以テ會津同意ニ人数先ヲ出シ玉薬ヲ出シ送リト由仙臺ヲ弱兵ニ會ニ當ル難ク
無ク[illegible]ト体ニ以歎愛ヲ[illegible]ニ南部津軽佐竹等ハ勤王ニ相承ニ[illegible]
會津城ガ七里ヲ[illegible]ニ要害険岨成一番頼ニ[illegible]ト山ヲ官軍ニ相寄ヲ[illegible]
[illegible]ニ右ニ[illegible]ニ推察ニ[illegible]

一 白川口官軍六万ニ勢ヲ[illegible]

七月十日　寄ニ進

十六 伊藤重映越後奥州出陣日記鈔

戊辰六月六日下郷ニ出張被仰付即急出ニ[illegible]仰付[illegible]七日晝過出立善光寺止宿
同八日柏原ニ休ニ関川泊　同九日荒井宿ニ休ニ高田泊　同十日今町ニ休ニ柏崎
泊但今町ニ[illegible]ニ罷越ル　同十一日関原ニ[illegible]石内ニ止宿[illegible]
明十二日早朝出立無板原村ニ出張ニ[illegible]

一 同十二日[illegible]ニ夕七時頃与板七番ニ下陣ニ着[illegible]澤[illegible]人[illegible]陣所
[illegible]同人一同原村陣所ニ出張[illegible]夜[illegible]ニ相勤

一 七月七日　山越一ニ進様　矢野倉[illegible]兵衛

明八日朝[illegible]ニ尾州[illegible]ニ被罷越ル[illegible]上[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]兵衛[illegible]ニ[illegible]
[illegible]

以上　七月七日

右ニ付尾藩交代ニ与板ヲ陣ニ引揚同十六日迄休息ニ於又同所墓場ニ出張ス

与板領
中条村七内悴
久七

右之者七月十七日朝与板迄逃解ニ承リ此始末たゞ通

一 若松在橋上村庄屋武左衛門方ニ罷在ル

一 六月廿五日出立武左衛門ハ軍事方ヘ御願當ニ三条町迄通行之印鑑世界請来ル

一 四月十七日ハ白川口戦争相始同夜落城ニ付ル薩長彦根之内

一 久七今津人足ニ罷出ル内今藩仙墓二本松迄歩兵探出

一 四月廿二日戦争米澤勢探出シ其節會津勢勝利ニ白川城取返シニ本城官軍勢八拾人生捕姓名相記ニ有ニ墓場ニ上ル為来ニ拭ル事

官軍復白川城五月朔日也

一 至四月廿五日迄戦争有之同夜白川官軍勢ニ取返シニ相成右夜稀有ニ大雨油断致シ酒呉ニ長シル安官軍寂山ニ忍入リ戦争相始ル如今津方大敗軍摘リ三百八拾人程内家老武人小横山稲渕其外姓不相分ニ有貫七百人ニ死数不知御家大横山馬上ニ戦争中駈廻リ砲発致シル得共ナヅまし金の玉ニ打当ツ打死ニ相成ル右人数取紛ニ上あふくの川ニ十里程之二尾備ニ築ニ其上為来ニ拭ル事

一 六月十八日迄追ニ戦争有之ル得ニ格別ニ勝利ニ至ル同日棚倉落城藪来ニ申村方迄御進軍之官軍方ニ来夜相成ル付今津勢大平村ニ申夜迄引取ニ相成ル右同所ハ三月中官軍勢四拾人程酒屋土蔵ニ隠シ置ル処ニ大平村拾八軒ニ住迄打殺ル筋ニ有之ル

一 三月中ニ二本松ハ白川邊迄三里四方人今津方ニ村ニ焼拂ニ相成ル事

一 今津方固所當國ニ加茂村松之固勢人数相分不申ト見所所ニ四千人程宿陣

一 ゝ風雪ゝ而居ル

一 新潟三条ゟ米沢新領ゟ申ス分杭相建ル事

一 本与板村切所固メ水藩二百人程ツヽ採出シ本陣ニ郎右ヱ門方

一 水藩三百人大河津宿陣日ゝ百人程ツヽ交代ス事

一 本与板八幡宮峯ハ鷹ケ峯迄今ハ藩勢固メ陣所八ケ所勢九拾人程ニ而居ル

右觀音寺勇次郎勢相加ハリ居ル事ニ而居ル

一 瀧谷村今町兵農兵二拾人程潜伏シ右農兵改新兵ニ申事ニ而居ル

一 今津路ハ津川迄本道夫ハ篠堀迄手船五泉迄小須戸迄ハ燕町態の森

西野通リ并本ハ岩方村ヘ當日着仕ル　是ハ久七人今津ハ船村ヘ道筋ニ而居ル

一 中条未寶米沢勢六拾人程宿陣

一 當月四日米沢ゟ米千表新発田ハ船ニ積登中条未寶辺水府内村ハ手死

差出ル事

一 歩兵不残赤鬢束ヘ米澤勢中付ル事

一 七月二日川東大口村戦争ヘ歩兵三百人ニ内七人迯帰リ其外不残打死ニ而

一 本与板辺ニ今藩大砲三挺ニ内武挺破損ツヽ残ル挺丸山辺陣所ニ伏セ置ル事

一 今津勢四月廿五日白川口戦争ニ家老大横山氏討死ニ付其後善殿様若松ハ五里ニ

採出シ福良ゟ家ヘ内宿陣夫ハ行ニ採出シ御代ル了ニ家ヘ内宿陣ニ事

一 東叡山宮様六月三日今津若松ヘ内一宿夫ハ米沢ハ内移リニ事

一 久七義去ル四日峯方村ハ岩賊徒人足ニ繋立近辺諸方陣所ヘ遣リ此然ル処米

大砲武挺ニ内破損ニ分本ニ板ハ岩方村ヘ指運シ節途中ハ駈ニ付ツヽ十日夜

本与板村燒残リニ家ニ十一日曉方迄隠見居衛ニ与板町入口御陣所迄逃ル

但大砲ニ家ニ官軍ハ打出シ山王ニ大砲ニ口ハ打込破損致シ又ニ挺ハ同

金忠ニ雷風
尔礮碎破賊
軍之二砲

新筒ヶ中程ヨリ破裂シテ外ヲ見ル者ノ顔ヲ傷ク
四人七十ヲ以上

一七月四日原村墓場屋根並ニ請負小屋上ニテ大人四人ヲ斬ル

一同十日会津兵忠兵衛持場ヨリ富士ノ砲風ヲ車ニ乗セ破損ヲ修富山ヘ送ル右ノ人数大砲押ノ節十人下ノ侍ヲ人服着ヲ被ヒ其玉夫ヲ見ヘ押リノ但ヒラノ筒

一同十二日ノ昼ヲ人ヲ斬ヲ六ツヲ筒

七月十二日ノ夜橋口旅ヲ北敵ヲ斬ル者ヲ明ン岩村ヨリ北陸道ヲ軍ヲ繁ニ群ル東山道ヲ軍ヲ繁サレヲ以テ十七日ヲ止テ悉ク退散セリト云ヘリ此ヲ者ハ谷ノヒラヒヤ

一近ヒヲ人ヲ者ヲ一ツ明ヲ夜ヲ殺ヒ元ヨリ此ヲ地ヲ多ヲ遊ヒ隊ヲ一流ヒヲ人ヲ在ル橋ヒヲ人ヲ多ヲ殺ヒ

一十七日仕ヲ為ヲ迫ヲ夜ヲ撃迫セル由ヲ鉾山ヲ人ヲ者ヲ為ヲ報ヲ仇ヲ討ヲ二ヲ者ヲ出ヲ迫ヲ夜行ヲ

一木林来ル由白川口ヲ一日肥後ヲ川西勢ヲ兵ト戦ヒ有利肥後ヲ機ヲ失シ迫ヒ云ヒ川ハ後軍ノ来ヲ待ントヲ不ヒ由戦ヒ大砲ヒ子ヲ墳ヲ井来ヲ之ヲ為ヒ弾丸頭ヲリト云ヒ肥人弱ヒ迫ヒ為ヒ二ヲ川ヒ勝ヒ舟ヒシ時踏ヲ人ヲ数ヲ戦ヒ死ヲ為ヒ者ヒ放ヲ置ヲモ以ヲ肥人ヒヲ為ヒ再ヒ死傷ヲ多ヲ及ヒ有ヒ仰ノヒヲ名何トヒヲ云ヒヲ者ヒシ春依ヲテ

七月十四日 鎮兵ヲ会ヒ迫ヒ為ヒ二ヲ川ヒ勝ヒ舟ヒシ時踏ヲ人ヲ数ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

七月九三日

戒シテ人ニ不示由子竟ノ外白川口ハ賊勢猖獗ニシテ官軍延不得ト云ヒ日土州人ハ
要害ノ処勝負ニ不進説攻口ノ模様ヲ觀テ一ツ進退ト云ヘリ

一 仁和寺宮ハ七月七日高田ニ著營三郷ハ八日高田引揚説攻口ニ進ミ積ノ由能然ルシ如 来云

一 北越官軍弥彦を攻取タル風聞有之未夕報告ハ無之由或云薩州ニ於テ悪者有之右
追追ニ早追通行セリト川田村ニ於テ多クリト云 ○十八十九日大戦ニ至テ弥彦ヲ有ト
云然ニ出雲城ハ山田二里山田ハ寺領二里寺領ハ弥彦ヘ三里此間安岸ニ陣シテ小山峯
亦豊ニ国上弥彦 三小社中ニ山ニ国上弥彦ニ至テ道有リ之ニ遠れハ新潟近境ナ
シ唯為日ニ之ヲ破ルハ手ニ入ルト云ヘリ 果而無疑之

一 長ニ沢ニ在今長岐藩六月十三日隊長ニ下 須賀富老 中野五郎大夫
北越出張ニ下部隊馬ニ使率九人隊某者ニ於テ行ヘシ

七月六日

七月六日 前沢ニ本城ヲ同リテ八日夜死罪ニ本城ト
此類ハ其人ハ其死罪各等ニ多

右ハ江戸上野賊徒ニ一味ナル事是ハ道路ニ従テ実ハ北越ニ賊徒ト文通致
右霧顕故ト申ニ付ニ川田村ニ於テ

一 北越ハ長岡の新ニ自六小隊到着衣装ハ推ニ常ニ賊ニ至ニ一様ニ義之ト云
本藩兵隊ニ軍装契垢誌屋我ヲ呼テ閑僕喜田ト云 銃手ハ憂之云

一 右須坂ニ中野を呼ニ時江戸留守居何某を呼ニ江戸留守ニ中野ニ死を軍ニ其
伊出奔セルニ於テ人ニ云ハ此人ニ至テ字

○松代領解示し

富貴之後ハ兼ニ被 伊出義有ニ家ニ於ニ厳夏 第留墨ニ而ハ今般右等
ニ類シト今人ニ被ト哉之語相写如何変事ニ以万一者ニ於テ不相済事
付心得遠無之様小家来ニ近可解罪者也

七月二日

○今夏ニ変事ニ千万富ニ為ニ上より寺院ハ勿論町家ニ至 数百万ニ富を無行当寓

花ハ渇ニ而[illegible]老卒[illegible]延引而成或ハ[illegible]様ニ而あり候、実ニ[illegible]
[illegible]葉[illegible]
[illegible]止[illegible]

一官軍方[illegible]国松代通行薩州藩并原代出雲長州藩赤川[illegible]人[illegible]
[illegible]行　七月九二日
弥彦近辺ニ屯集之賊徒官軍[illegible]弥彦[illegible]
[illegible]右山[illegible]国[illegible]進軍[illegible]進軍[illegible]賊徒[illegible]
[illegible]
[illegible]

金井鉄之進ハ八田ハ嘉吉叔
二十二ハ半蔵金ニて篠崎ホト一回
[illegible]傳聞ノ誤ナリ
出雲崎口戦
久田

十八
北越出雲崎在陣金井清八郎寄浦瀬在陣之兄弥總[illegible]書　仲元
六月
去月廿八日[illegible]七月五日[illegible]七月四日夜浦瀬村[illegible]
[illegible]且[illegible]人[illegible]
[illegible]六月十四日[illegible]戦争ニ節金井八田[illegible]
[illegible]六月其後廿一日[illegible]陣[illegible]銃丸[illegible]其後[illegible]進
[illegible]半蔵金ニて篠崎氏[illegible]
[illegible]出雲　六月十二日久田山上戦争[illegible]加州[illegible]兵[illegible]
賊ノ[illegible]人余[illegible]村田[illegible]山上死人[illegible]
[illegible]六月十三日[illegible]村[illegible]進[illegible]大砲　九三寸口径　二挺[illegible]加州
[illegible]一挺[illegible]六月朔日[illegible]兵[illegible]暫休息[illegible]
[illegible]当国[illegible]六月十三日[illegible]加州[illegible]交代

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

六月十九日安陸
両道攻進

ノ雲浦ヘ引取申候其後十九日暁天賊海岸並山上両道より攻撃之趣ニ而早速
進軍之処有之小艇ニ而長州蒸気船之跡ニ従ひ行ヘ相と之事ニ而五六人ツヽ五艘
ニ而海上ヘ漕出し申候処彼方ハ多分陸より行く舟之様を畏れてや薩長之人数も
大凡十艘ニ而蒸気之前後ヘ布列し二艘ツヽ組合相進む此時久田海岸加州と
賊と大砲戦頻りニ附属之小艇凡岸を距る一里程蒸気唯これより岸之方ヘ近付
賊台場ニ打ニ付申候砲発ニ不発りて又不到弾も有之候ニ付山田窟之方ヘ赴き又
発砲窟中ヘ二三発打込申候焼玉ニハ無之賊畏れて海岸より山上ヘ逃上る 此山上ハ落水村之
海岸台場之上の山其台場道ハ此二台場ハ賊十八日夜築之 蒸気尚進て寺泊の方ヘ走り発砲又帰り山田
窟及賊台場ヘ発砲し暫く洋中ヘ引き久田村ニ上陸の為通達有之候所ヘ
上陸午食を喫し山手より右賊之山上台場を攻撃せんと欲する処地形悪
しく候ニ付速ニ決議有之雲浦ヘ引取申候右ハ元来兵数少く候ニ付暫く相待し

六月廿四日
澤田藤巻迎戦

兵加り候上進撃之筈之処賊打掛来り候付山田を焼打し山海二道より攻撃ト兼相定
候得共岸遠海ニて軍艦近付を不得少数之由右ニ付引取て不存寄船を以説り引揚候
廿四日早天ニ藤巻村ヘ進軍之為通達有之久田海岸ヘ出張急ニ澤田村之方ヘ出張一の隊を進
し替有之同村ヘ着北山山領ヘ進兵此時賊藤巻村ニ入込 藤巻ハ山領を越ト澤田村之右藤巻の村なり
山領備ヘ左之方ニ高田台場大小三四ケ所ニて列要打合て居候ニ薩州加州同藩大寺
赤坂久田山上も続急砲戦有之候右久田山ニて八加州之隊長水野徳三郎戦死其他死傷
十七八人と申す賊澤合より不意ニ迎打ト故之由油断故之事と相見候藤巻之方ハ賊
挟み撃ニも致さへく巧みニ死候人数擬そして進み兼之敗亡いたし申ト云賊
より打出ト ハ少く候退き候同村一宗民を放火いたし其後又ニ放火ニ而少死候人
数も之を追山上ヘ廻り行ト申もの打之二三人も怪我をさせ申し而始終中ふし
候賊右ニて引退き候故澤田村ヘ退居り本陣ヘ請り知ル弥兼無之[illegible]田数の

乙茂

七張且今朝より戦労レ候ニ付当隊交代相来り候得共知らず既ニ半隊其塁場迄着ニ
相成り又乙茂左陣より早速応援ハ可ト相待候得不得止事ニ相断ニ及ひ乙
茂ハ兼而約之藤藩赤松重之助加藩杉本惣兵衛和介并ニ而終ニ加藩と組合
相成申候時既ニ六ツ過黒白も不分燈火ハ強盗提灯ニ而も火先を賊ニ見やられ
さる様加藩申合大ニ都合且弾薬兵粮迄送 人足逃去り候ト申 ても心配いたし候而
四ツ時頃先年被ニ兼而申置候ニ今朝既ニ賊ヲ持場を破り太等長兵ニ応援
乙再ひ再追ひ候中為傳故如何にも加藩之人々恐怖いたし居候ト申 持場
塁場ニ兄弟ニ而一両ニ日ニ而いつれくゝとも御向を付けたる事ト申候而
持場なるハ元ト申ト而少人数持場廃ト故度々加勢請置候へとも長兵
兵不来何分力不及候故ニ付申候ハ然ル処又乙茂陣より早速
四ツ引返し候而尚七張申通候兵人数ニ而も旅中条リ付同所へ引籠り候由

廿五日夜

四ツ時ト彼是奔走之ト被吾共申ト相成候而も加州も大ニ力を失ひ候傳之所 其後子
細ニ峯ハ半隊移兵ニ而七条へ至るニ無之として其日既ニ兵加り候所引返呉

六月廿九日夜

ト根長州参謀候所傳ニ而申ト又神条村ニ寡婦ニ而其許ハ何者の家君入候ハ
承帰之驚愕而帰ニ候大ニ怒りて撃を発しけれ誤て賊夜行ならん

六月廿八日暁

村民諸之兵皆走り候而已知れ笑止千万なりけり而四ツ時ト又ニ而変ニ両並
ニ但傍より北山嶺へ急出張候のとまて候し 又西之藩大ニ誤り方ニ右嶺上 そハ旬備陣所より待日并兵
敵源を俟しト ホハロこそのこ

七月朔日

御経塚築堡

七月朔日朝藤実村ヘ兵隊半小隊ニ相和且薩長之参謀等相和ニ而
長之 伊東傳藏 久保谷二藩ホ申通候事速七張繰相待申候右三人来着記之敵
迄ニ参ニ及ぶ其兵御経塚を本陣ニ其塁場を築造し兵を以攻撃
無之しよりも先鋒ハ御人数応援ハ廿四挺半隊入砲一門ニ而出し四砲

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

一門サツ出ヽ二ノ臺場地形見立ニ為田持ニ其他神条瀧谷ニ加ヘ長州ニ於ケ
蕩ニと持合ハ始ヘテ先作候を出し賊情を候ハ今ニ一丁ニ四人位
ヲ河邊塚の手家大葛根（つゝ収）近ニ単ニ追ニ但ニ者ハ徑塚近ニ取ハ右ニ岐
路アリ柄木村ニ至ル（薩）サツ守之多程土俵鍬鎌ニ美民夫持条早速ハ徑塚の下辺ニ
臺場築立（為田サツマノ大砲隊と共ニ守之）又藤巻村より為畑ヘ越ハ峠初メサツノ持場ニ所
名ニ外往来小道ニ番共四人数ニ代リ守ニ尚又ニ左ニ小ニ為ニ要地ニ臺場
築立（但ニ者守之）前ニ往来ハ上番ハ番方守之此夜雨発砲ニ感ニして玉葉七千個発
ニ乃ニ夜分磨撥サツ一の事処ニ為田是ニ代リ一ノ臺場ニ来る雨亦甚しく
臺場未成小屋ハ勿論ニ兵皆堪兼申ニ此
此日軽卒一人（西村岩次郎）ノ手ノ甲ニ疵を得
七月
二日互ニ発砲不減前夜負ニ怒サレ後ニ

三日発砲減前日此日中條本陣詰一人且人夫遣ニ達し有ニ（本陣第名ニ上人夫ハ七十人ニ）
銃手一人（中原根右作）即死（即瘡）同一人手負（中川八千郎股ニ後ニ有ニ骨節ニ不得ト云）是ニ於
ニ益臺場を厳ニ補理ニ為田後一人即死
一四日発砲益減少互ニ待命中番放ニ有るのニ徒らニ玉葉を費ニ有ニ以ニ
賊元来玉葉乏費故自是ニ於ケ此ハ先ハ打ニ出ニ了ニ然ニ又ニ了ニハ今日ニ
一五日発砲如前日此日与ニ為田謀臺場左右ヘ近長ニ軽卒（小村孝太郎頭ニ）
一六日今日又臺場を厳ニ有ニ四日より今日ニ至り無虚日賊落水村ニ民家ニ
放火ニ故ニ又夜来大寺村ニ民家三四軒放火ニ
一七日発砲同上ニ而更ニ頃大寺火起る賊大小銃交番ニ劇し二更ニ及ひ砲声
稍収る（大砲ハ二三度ニ入キ）
一八日発砲同断

九日如前日七時頃落水村又放火夜賊之為砲常ヨリ多し
十日同新昨日佛人石地上陸之由議和之風多有り然ても陸参謀ホロヘ込
之如く屈伏して去るといふ今日より大小荷鉄雲浦ニ於て其人を借
へ之を建ちて今計方居相（井サウ）ニ佐と云人之由
十一日昼夜多砲め常
十二日暁村田妙法寺放火七堂之伽藍之処七面堂経堂残るのみと云
加州之新加兵多人数て茂之出張薩州て茂之兵二十九寸四砲を之由より
借用同和より木芽炸即ち同径隊對陸之賊塁を打つ打傷家より賊塁
少し不見る様に依て弾志多くて好志少し
十三日多砲め常隊長河原度軍監近民勘吟竹金同役にて弘写
雲浦之来り塁傷巡見ありて今日第る之由そして朔日より二人即死二人

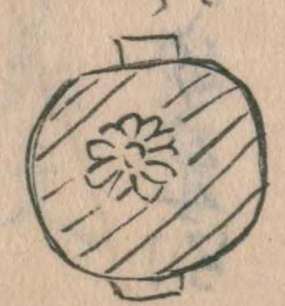
之負之とて同意傷にて死傷亦同新之
十四日同人数他加藤浮田村ニ退軍夜塁場を発砲不断然ることを別
条也
十五日暁天より微雨追て甚夜一面未成候也
朔日已来其已来大暑め右同塁ト前同作者を作上下両又七夕を
以後候て而上を出し又ト早くも無中と未成り何廉同在所にて田藤
同右砲之同多砲家同同情を得ると今日ハ中元ニ陸中を出候ト誘る也
陸国家ニ任日同情を得ると御在所にても前者其稲方同迎ひし淋然
ことなりしを出し又ニ至り打角時候同り重同書力之程為国
家を力祈し出同後信とあり中上婦ト以上
中元
貞西詳上

弥惣左衛門様 上

二白 上ニも甲府御城代之義 □□且依頼所も□□之候
とつくり□□申事ニ御座候 □□□□申上候

九 武敏 戊辰中元 北越出雲崎陣所発書 田舎三夜達 稲垣平助 新発田写附

先月六夜之義 先つ之ニ候へとも 去月ニ出雲崎ニ陳去達 夜中ニ申置候 甲府
も 御城代之義 御内談も有之 小川陣屋 陣所村 代官 [illegible] 申候 御着陣也
者 御座候由ニ御座候 又何れ参りもを 御城代之事 大御多理立候
御免 御新 [illegible] 候由 [illegible] 御座候 弥甲府 御出張ニも 未成ト [illegible] 之ハ 又
御人数も [illegible] 之 御供ニ 出立 且 朝廷より之 徴兵 と申候 [illegible]
出ハ 陣ニ出兵之 徴兵 [illegible] 御章も 旗 印地 黒 御紋 菊 十六葉 夜ハ
菊黒御紋 蔭之 横 [illegible] 候



一 戦争之方も専ら守禦之 [illegible] 候 [illegible] 一統御人数大ニ
勝ニ利有之 [illegible] 同盟 [illegible] 毎度越辺之 [illegible] 毎戦勝
識之 [illegible] 不成 [illegible] 同 [illegible] 大ニ [illegible] 思 [illegible]
[illegible] 切 [illegible] 出雲崎 [illegible] 大致
官軍計 [illegible] 甚 [illegible] 不 [illegible] 故 [illegible]
出 [illegible] 諸藩之人 [illegible] 兵粮 [illegible] 紙筆 [illegible]
追も [illegible] 朝廷 [illegible] 論 出雲崎 [illegible] 諸軍 [illegible]
[illegible] 大任 [illegible] 兼 [illegible] 加州 [illegible] 西辺 [illegible] 又 [illegible]
初ハ [illegible] 越 [illegible] 目 [illegible] 味 [illegible]
洒 [illegible] 諸軍 [illegible]
戦 [illegible] 何分朝 [illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

之日を仰きも有て実は此勢ひにて候へ共候ハヽ…極再三再四候ニ付
之ゟ未タ少法ニ而登營而已ならす且廷臣并河原源長と共ニ協議遂しも一応
夜分ハ不及申又候之心得ニ而侍臣等此度之御都合ニ付
ら全く合議之為此立候ニ付且此勢ニ而筆合せ候ても宥免無之廉禁も
へ元候ハヽと心配至極ニ存ト誠ニ而ハ右人々ニ而も何れ右様之人々登用ニ
実ニ者此候事勤王ニ而ハ我々様ニも候ニ而無之而ハ機会ニ候事
又是迄追々大ニ気を揉候も全く勤王中候ニ付節ニ而或ハ…
ヘ候ニ付而候人ニ者も此度ニ而者…有之大ニ費事ニ而…
中ニ而此候事出候ニ付兵ニ人ニ而も候…
御行中出
三郎右衛門

乍恐謹而奉歎願候

普天之下
王地王臣ニ不在者無御座候得者従来
王政御復古以来於
王事勤労不在之候半而者不相済且徳川家世々恭順
謹慎之主意殊ニ牧野家祖先河波民部少輔者平氏ニ属
し其頃依
勅許十六葉之菊辞退仕當以テ家紋同様軍器常服
等ニ相用来候程之事柄ニ御座候得者従素
天朝之御味方不仕候半而ハ先祖以来之主意ニ茂相違
仕候儀ニ奉存候ニ付数度寸志申立一旦

勅使　御下向先迄御請書迄者差出しに相成候得共爲其
臣等勤
王之実功不相建残念至極且奉恐入候春来不相勝罷在ロ故
殆病発侍ニ疲労弥増し重ニ痼与罷成既ニ落命可仕ヲ与
存候躰ニ相成勤
王之道不相建残日ニ夜朝暮落涙罷在候事ニ御座候
處長岡一朝ニ落城仕候茂畢竟大河を頼ニして人心一和
不仕兵ヲ以テ
朝兵ニ向候　天罪奉恐入候病中一先朽窪堀ニ落去
従夫蒲原筋ニ罷出テ得加粮仕様々快方罷成リ候ニ付
天兵　御歩入之期待居候共其場ニ不至下民人心過半

朝兵を迎ひ候期を相見候得共會桑等之逆賊又観音
寺之賊徒等下拙下筋偶居之風聞高々可住間カ地も無
御座爲賊兵一命を捨候ヲ者残念不少奉存候ニ付勝見
濱迄罷出候ニ御座候身不行届之條者偏ニ　寛大之
御所置を相願之来勤
王之心願ニ御座候得者實ニ
天兵ニ迎ひ逆賊ヲ申唱ひ或ハ
君側之悪を拂候ヲ申唱ひ候輩ハ死を共ニ仕候心底毛
重茂無御座候同藩同心之者茂御座候儀勤
王之実功相建度存念ニ御座候厚き
御憐察之上宜御差図奉希上候天下御平均之上者

御採用之有無ニ不拘主家之家名を歎願仕度赤心ノ多衆
如何様被
仰付候共萬々之宿意ニ御座候間伏而
御仁恕之程奉願上候
誠恐誠懼頓首謹言

辰六月

稲垣平助　百拜

一　九日夕長岡藩士三十余人石瀬村...取計ニ家柄ニ而出雲崎陣営
迄出候之姿を陣ニ於方御本陣へ十六七人と共ニ降参之由
此者内ニも有之候ニ存ル

七月十日

二　北越出雲崎在陣西村忠成寄候国船若書　七月十八日

扨此表も追々官兵相加り　当十五日　総督仁和寺宮陸軍将壬生殿柏崎
江御着陣　十六日長岡江長州大隊兵凡五百人　其外越前兵五百人　高田兵五十人
御家ニ而四百人之兵...候所　当二日大黒...戦争ニ而古屋と泥田之中
ニ而戦ニ而実ニ心配之事ニ有之　諸口とも新加兵相成候而其中ニも近軍一の
未存候
御上ニも甲府...　何ニ...候所...
...　当十四日御...兵を加州之兵と交手...澤田村江
引揚ケ此所ニ而...長...御...四五十日
...　御家...議...人...近御...進んで出
又...実...

七月十八日　澤田陣営

西村忠太郎

御本書奉書収立書

松平肥後始終暴逆ヲ恣ニシ近傍諸藩ヲ煽動シ
屢々
王師ニ抗衡ス故ニ萬民塗炭之苦ヲ被為
救候
叡慮貫キ無且勤
王之大小諸藩數旬對壘及難戦死傷モ不少段達
天聽大ニ被為悦
宸襟候依之今般北軍為總督早速出馬遂
成功奉安
宸襟候様厚キ叡

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

勅命不肖之身敢而雖不當其任危急之場合
辞スルニ暇ナク今日當地ニ致著陣候此上偏ニ
諸藩ト同心合力奉奏成功度賴存候右
勅意之趣且著陣之布告為可致如件

七月十五日

嘉彰

越後口出張
諸藩ニ

別紙之通被　仰出ハ宜可取計一の給ハヤ

七月十五日

兵部卿宮
參謀

長岡本營
兵ニ傳ヲ

別紙　兵部卿宮様ニ　仰出ハ間可回達被ハ當取不洩様可布告
可ニ成ハ

七月十六日

今可議所詰各様

本陣

(三)北陣相澤就太郎書帖

仁和寺様ハ柳崎ハ本陣ニ内壬生様と中ハ方ハ家ニ宮様ニ大兵ニ
謀ニ居ルニ今日長岡本營ニ居ル輿ニ以上ト其他大隊雜近ニ連ニ

日近朝子等迄下候旨ニ義被レ探索方ニ吐ニ及迄レ叶ニ候ニ付而ハ
居レ合之面々ニも一通ニ不レ及ニ御糺明一候ニ付而ハ
ニ而ハ不レ相済ニ事ニ候ニ付以上

七月十六日

○又 勅使御目通ニ罷出候節之事ニ付上

七

八月十八日早朝ニ品川ニ而ニ名義ニ而ニ則罷出ニ候ニ付
ニ而ニ九条殿一同 勅使之通ニ而ニ御目通ニ罷出ニ候ニ付
ニ而ニ当之通ニ而ニ 勅使ニ而ニ生様 菊黄ニ而ニ
ニ而ニ当之面 勅使ニ而ニ生様 菊黄ニ而ニ
ニ而ニ当之面 勅使ニ而ニ生様 菊黄ニ而ニ

日記所出 勅書
頗詳且長今節略而不同何字○

生卿兵隊ニ而ニ慰労之

勅諚ニ而ニ読候

数月之間諸藩不容易盡力 感被遊ニ依之軍士慰労として
勅使ニ而ニ生卿ニ而ニ着下賜ニ而ニ事

利澤義夫ニ而ニ

狩被ニ仰付ニ候 勅使ニ而ニ

頂戴可有ニ被仰渡ニ候書附長太郎ニ此人長州
その諜報ニ而ニ

進ニ有之ニ而ニ右ニ様ニ兵隊ニ慰労之ニ而ニ言葉ニ而ニ親義ニ而ニ 仰ニ而ニ西園寺ニ而ニ
ニ而ニ同様ニ仰ニ而ニ 勅使ニ而ニ生卿ニ而ニ着下賜ニ而ニ事ニ而ニ平伏ニ而ニ上ニ而ニ

其後別紙人長ニ而ニ厳ニ法ニ而ニ同義長太郎ニ而ニ各藩不心得ニ而ニ
可被ニ而ニ御沙汰ニ而ニ事ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ而ニ
文化ニ而ニ五年ニ而ニ儲君ニ而ニ 勅使ニ而ニ 仰ニ而ニ 義ニ而ニ
一ニ而ニ西園寺ニ而ニ 勅使ニ而ニ 仰ニ而ニ 義ニ而ニ 諸ニ而ニ 義ニ而ニ

今十七日以上 七月

人民ニ而ニ厳ニ而ニ沙汰ニ而ニ存候 次丁ニ見

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

日誌所出 勅書
頗詳且長今節略而不同何乎○

所近殺手無遺ト偽快ニ義賊ヲ探索方ニ叱ニ遣ヒ叶ヲ得ヒ力を
落シ居ト由左ニ一ツ為ニ不遠ニ掃攘ニ慶殺ニ可殺ヲ一ツ為ニ之ニ以上
一ツ成ト先ニ得ヲ事ニ之ト以上
七月十六日

○又 勅使御目通ニ罷出ト有續ニ尋ニ付申上

相澤龍太郎

八于十八日早朝ニ宮ニ一ツ無出ニ今參徐ニ中來ル則罷出ニ不薩長を初
与して凡代萬一同 勅使ニ遂ニ遊ニ付ニ目通ニ罷出ニ有ニ二ツ
ニ間ニ出ニ事ニ正面 勅使壬生様 茄黄ニ將長東ニ立烏帽子 ニ侍座西園寺中納言ニ則
壬生卿兵隊ニ慰勞之 勅諚ニ讀 後 ○各藩一通ニ以後
數月之間諸藩不容易盡力 感感被遊ニ依之軍士慰勞として
勅使ニ至立ニ有卿酒肴下賜ニ中事

七月

天朝ニ恩ニ宣以難有義ニ以ニ事ト私ニ事も使ニ人ニ議不詰罷出ニ間 朝命を
ニ道ニ拜彰仕ニ事面目ニ以ニ事ト有ニ以ニ上ニ以ニ御様ニ自身戦地ニ巡見ニ
馬ニ用意ニ付出ニ更ニ虚飾ニ事無ニ
ニ義難有ニ多ニ事ニ先ニ此段ニ上ニ以上
勅使とても如何ニも拝裝
七月十八日
人民ニ厳ニ以沙汰ニ一ツ在此 次丁ニ見

(五)

二 各藩病院一々歴視蒙傷ハ者一ツ致 学問處 病院各處々ニ多至
不能ニ候ハ可至渥ニ御趣意毋貫徹ハ長官中ハ一ツ了望ハ
怪我人ニ於 下物ニ御夫々ニ分配ニ致ハ也
七月十八日
壬生左衛門權佐
各藩
病院ニ

一 別紙 勅使より被
仰出ト示渡相同布告一ツ之事ト怪我人ニ於ハ今日之頃者一同
會計方より分配ニ致ハ以上
七月十九日
本陣
薩州 長州 加州 尾州 高田 松代 大垣 富山
高崎 松本 上田 高遠 高島 飯山 与板 龍岡
飯田 岩村田 須坂 椎谷 次第不同
當時怪我人入院無之藩ハ不及迴達ハ
(六) 人民御獻之ハ沙汰書写
春来賊徒處々ニ相聚官軍ニ相抗シハ砌其土地人民兵火ニ罹ル賊
役々疲手シ或ハ粮食を送至或ハ弾薬を運ひ朝夕奔走実々戦地之

習ひ多據といへとも均しく
朝廷之赤子深く　御憐愍ニ　思召之付厚く好生仁慈之御旨類
を奉戴し急以安撫救恤之道を心を尽し假初にも非道之驅使無之
人民令安堵山埼　御沙汰山本

二十　七月五日

追ニ著候ニ事多ク数

越前兵　五百人　藝州兵　四百人　土州兵　三百人
長召兵　三大隊　但長一小隊半人　薩州兵　六百人
宮様は隨供七百人　岩國勢　三百人　鍋島上総兵一大隊

右岩村及調也

二六　武敏七月廿二日從此雲陽陣營寄宮力氏書　八月十一日達

隨ニ私儀吉日十一日より會計局ニ出着之事ニ至極都合と宣布同局中如何ニも能
別合　御家之爲ニ格別ニ心ヲ用ひくれ公私ニ大慶之至ニ存ト悲ニ候追ニ類
願ニ私不行届之条申出戰地之方ニ出張仕候ニ付ニ不計一昨朝仕内金屋ニ
付ニ候ニ付同日右之役局中ニ御斷退出仕ト候し同局中引きうけ不申候
是非御理合御出席之事ニ候ニ付其上腕ニ不所相仕内氏ニ付内話ニ付殺能
十斷ト致ニ以後更めて皆ニ御使番御目付兼ニ相勤ト申ニ候
仰候難有ニ存ト相皮軍會計局勤方之爲ニ相當軍ニ入ニ當地之人
ニ貸し出し之ニ入ニ候ニ次第ニ而ニ大ニ當ト戰事ニ未替ニ候ニ屋候し御ニ諸家
人數も操込ニ相成ニ入ニ近日進撃ニ存ト是迄之人數与板口六千八百余出雲
崎口三千百五十余長岡ハ一ヶ月ニ入ニ不相分ニ當方ニ十八日若州三百三十

六人　十九日拔第四百人昨夜藩州四百人余打込ニ相成申候　進撃も是非藩長
松代ニ三藩ハ無之ハ不成候一統之説ニ有之候。迷惑ニ存申候
○麻的儀一口高知一手ニ追込候ハゝ高手之昇平郎ト先便噂両軍一同浮田打立候
而ニ示す手前申子之何とも十余り申出候も実ニ何の是非御貫撃ニ相成候
○今討死大小荷駄方退出陸軍方之兵糧方而も大ニ難義之申候七日高中ニ而相備
是ハ七十四人之何ワと申候上ハ先づ是迄之候常設村之代官頭立
付而ハ手あし候ヘハ下り人而待居候のみ事故第一ニ御仕置之事ニ候而相用
御保護を被遣候　以上
　七月廿六日　　　出雲崎より　　　玉木平吉
御会所様
去月十日　何分言相成候　以上　　十九日大参謀書付得参謀宿陣ニ而出立之上ハ
軍船四艘　新潟ニ参り候而人数七百余人引退候而しばらく人数也

二九
武敏　七月廿五日北越雲浦所発　八月廿五日達　写留抄
私義先日来軍会計局大小荷駄方ニ而相勤甚以不調法之多故以記候而実ハ
御家之為ニ存候諸家ニ而も者共大ニ疲申何分御聞届被成候而私共之手当ても
有之且出雲崎申中一統筆之又　御家之為ニ存候而松代之下陣ニ而十七八人位ニ
者差添候而人足共も　此節様ニ而も競て余り人を気毒ニ存候御家ヘハ存
候得共一切決を是迄ハ為も不相成申候而　御家之為何分　御借を
御保護之程も識以私共之私を知らせ候由ニ而余程　披露之日ニ而候而
人足共之度大小荷駄方代りとして余り呉候而私共ハ皆之御使番御目付
為手勤候ニ付何分難有存候　又局中退方之事ニ而も今会計方兵糧
良佐居候而後見遣申候而候得共先づ手当ても無之大ニ恐入候得共
候ニ付御手当之儀を以相願ニ付少し其以身を御家ニ比し　御兵ニ御為方一ニ付

ニ〆ダル由ナリ　薩長加州其他藩ニテ衛リ致シ居候ニ付　必ス尚候ニテ是迄ニ出候
総督ノ紙ヲ遣ハサレ　當方ヘハ越前若州薩州徴兵　長州ノ兵士ナト　加賀　出雲
崎口總人数三千二百余ニテ　右ヘ追加シ四千人余ノ人数ニ及フト申セ共　其上一昨日
三日五時柏崎沖揚陸ノ蒸気軍艦五艘　私ニ今町口迄付ニ前ニ参候　當備四艘ニテ一隊兵卒凡二七百二十
一人ト見ル　両方ノ後又千人ヨ上陸ノ　海陸軍ニ而進発ニ相成　新潟ヨ上陸
出成一艘ヲ焼キ候ト云フ由ナリ
彼辺ハ新発田和議候得共　漸移候　又兼テ新潟ハ出張ノ兵ヲ以テ差出ス由
野ノ辺ニ大砲ヲ並ヘ　無人数ノ備相成候由　左スレハ多分彼ニ於テ砲発ト
新発田其上ヲ速ニ討入ト見込ミ候由ナリ
官軍進入ノ上ハ新発田ハ忽チ降伏ノ姿ニ相見ヘ　右ニ付新潟ヘハ出張無之
新潟ハ仙台上杉ノ弱兵ニ而余人在留ナレハ討破ラレ難支ナリ　奥羽ノ列藩
出張ノ事ヲ定メ　尤右会津ハ仙台ヲ始メ列藩手ヲ以テ守備ニ相成　不穏形

勢ニ相成候旨報告モ有之候ヨシ
其節出石辺賊ノ遊撃隊ヲ討ツ世識ヲ越シ　一時ニ諸口進撃ニ及ヒ候ヨリ
相成候得何れも用意仕　仰ニテ相待居候ヘハ　不日賊兵悉ク討破リ可申ト存候
仁和寺宮も既ニ柏崎ニ御着ニ而　大奥ノ祥子等御給　檜天寺ニ宿　備口陣
借用通ニ而ハ有之　新潟よりも相除候ヘハ　西南ノ軍も有之　又気遣
ナキモ有之候得共　近ク識心ヲ聊務メ在候得者　御年寄ニ茶宴
地ニ於テ思案此申候　○御代々御取欲此節
懐ノ都子中ニ而　三ツ位ノ首級ハさハ一尾ハ寸位ナルも直ニ御座
其他右ニ准し　是等ハ御手筆ヲ御報出ニ恐シも莫大ニ沸騰　日本中の八
当事ニ有之候　此間高道開窓ニ相成候事
○長岡ハ彦根ニも先ツ本藩近くへ出張ニ而　降人も更ニ四五十人

七月ノト彼方ハ西園寺家御出張あ成ニ於ケ[illegible]
庄ト和[illegible]
七月廿五日

[illegible]

三十 長岡敗聞第一報紀聞

一 七月廿七日至八時頃北越ハ呉憚者人ハ着所殺大略曰廿四日夜
中賊石田本營ヲ襲フ曰所ニ在ルハ薩長本藩及加州 長岡城守衛ナラン
之人数不意ヲ撃レ不能戦四方ニ散走して行方を不知此呉憚
と辛ク逃走リテ三佛生ニ来リタル時同郎 弥太郎 小幡 四朝ナラン
二人ニ逢タリ此人ニも頭髪以下深身泥ニ塗れタリ遁逃ニ
苦難の恵体之何れニも此場ヲ行進スヘシトテ与人ハ去れシ
此時[illegible]
此ヲリ此二人ニ与人数行方も死生も後ニ不知ハ長岡城
ハ原道されタルより此時石田ニ放火の烟スヘタリ賊より焼タ
一 河原深長ハ関原ハ下方ニ始ニ巡ルニ出テ来還 依テ[illegible]ルニヤ
石田ニ在る事幾何も有ラ[illegible]兵糧弾薬[illegible]
ナルニ

一近江送る所弾薬百七千餘有之二千万餘之弾薬ハ矢ヶ所由
之代大砲佐賀械皆此所ニ累ヶ人ナルヘシ金穀又同し
一病院之病者痊者極繁之毛同浮人ゆ何もるゝや皆不云
按ニ四夜童氏防戦ニ不及報之シタルニ九ヒロニ到リ放火セルハ建ニ似タリ
或ハ近傍之皆軍集リ来テ賊ヲ排撃スル為ニ放火セルカ或ハ賊
守ル不能火ヲ放テ引去タル歟再度ノ乱殺人ニハ芸岳ニ到リテ
来ル事ニ故ニ敵知之口又按賊数所ニ敵墨ヲ後ニシテ毛同
ヲ守ルヲ一の不能佐賀ヲ皆攻落シテ今代ヲ借の力ハ及ヘカラス
若又實ニ賊長岡城ヲ復ハ如見稜峠ニ仏生ノ地ヲ一の推ニ官軍
ナシ小千谷少ヲ為再賊有トナリ大流ニ通路硬塞シテ閏月末官軍
ニ功皆宜ニ至ルヘシ之の怨一の歎哉

仇敵地ニ入リ在陣スル本營ハ地ヲ相テ營墨ヲ築テ軍倉藏ヲ建
弾薬器械粮食之ヲ悉称シテ兵力ト云を畜ヘ悉軍三万之一或四分ノ一ヲ留
テ守衛ニ應接ニ備ヘ擊動線を定め都城ハ其ヲ御基地所得鎮
城ニ到リ然ル本營ニ到リ殺ス一日行毎ニ小氏營軍急ヲ建三四
日行ニ大氏營大軍急ヲ建テ遂ニ本營ニ達シ久次遞送ヲ法
ヲ用ヘテ弾薬法軍用物ヲ一所ニ裏積セス所得殺道ヲ利スルヤ
言ニ病者大疫ニ出る建ニ遞送シテ大病院ニ還し在陣ニ代ニ不留
ホ皆古人ニ成法定規有リ諸ニ之ヲ例ルニ知慮供略ヲ具ヲ
及ヘ事ニ然ニ賊ニ怨ニ骨骼ニ徴シ死カラ以テ借ント謀ル長岡城迫
ニ在テ地利ヲ不得一柵一隍ニ傷ヲ不役平然民居ニ宿陣し法
遠近各地ニ陣皆分配シテ唯一少深ニ守傷ヲ不留大砲与股一門全ヲ可領事ハ
全一つニ地法墨ニ延ヲ云

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

不分姫、思ひ」弥茶皆一所ニ積畜テ罕ニ兵ヲ侍ルヲ不可ニ山村如ニ
大藤長太ニ大福志郎皆留テ不還今一敗ニシテ数千戦ノ威ヲ破リ
国力ヲ損シ兵力ヲ喪ヘ不可復ニ大悪ニ書ニ及ヘリ諸侯ニ徳有ヨ
一人兵ヲ知ル事ヲ云ニ所致ニ予此侍ヲ及ヲ其歳度ニ一人耳
ヲ所ニ破ル事ヲ或遇慮ニ多ク侍ヲ為シ或ハ源法陋説ヲ作リ今不
幸ニシテ悉ク当ル国家ニ為ニ不仁ノ憤恨又此ニ記シテ
訓後ニ死ヲ言ヲ不能者之薩摩ニ如ニ又同ニ之ニ諸ニ似
タリ忘ヲ知ヲ彼ニ薩摩ニ為ニ墓地ヲ以テ基地ヲ弥茶ニ諸ニ滅モ
彼ニ置ヘ府院ヲ以テ建タリ知ル勤保ノ兵ヲ以テ之ヲ守
ル所ニ石田ニ一敗大ニ兵力ヲ喪ニ不可ニ其ニ也七月九七夜燒
下ニ徳

七月大八日

一 去月九日夜四ツ時三佛生日出立今夕七日八時着ニ下ニ
當九四日曉八時頃分薩摩ニ新町石田寄夜討賊兵分出始メ官兵大ニ破シ
此方様石田ニ積込ニ至ニ玉朱ニ来ル石田罕ニ来程賊ニ大ニ奪ヲ有ト疑ヲ寄
三佛生ニ引揚ク未ニ味方不集ト田

左伸路組 父介石田門

即死 小山

長州ヲ 石田

新町ヲ 長州 薩摩 加州 ニ当田

一 木村第刀完一書送て杤窪峠鹿備ヶ休息トシテ長岡ヶ来リ宿居ヶ処夜付ヶ八方ヶ焼ヶ来られ僅ニ身を以て遁れたる内賊兵夫人見下ヲ入込居内ヶ火ヲ放ちかより直して攻入ト云ヘ思ハれたり官兵ニ死傷侍衛を人ヲ殺ヲ事ハ思ハれ其夕ヶ為ニ云ヘ 二番相隊海軍實男 臨時ヲ并セ見ヲ置ケルヲ

大砲二門奪ハれたるよし云ヘ唯是而已ニ而ニ止ト云

一 説ニ小幡田縣同郡弥太郎の行方ヲ尋ヘ云 昨夜所聞ニ従ト正月反セリ

一 銃弾葉包ニ十万ヲ失ヘルヤウニ云ヘ 近日所送し 勢計数三月先ハ送ヶ

一日一万弾千包ヲ送ルヲ云 第一第千人後ハ一第五百人トナストシテ千一第一番トナシ五百一第を一人ヲ下ナスヲ取ニ便利スルニ

一 小葉ハ夜込られ暇シ却んとする際ヘ所以死ヲ云

一 此夜 十七日 義男ヶ弾葉箱を鞍セ申ヲ口宮ヲ而ヲ伺ヲ人ヲ死ヲ出セリ

院 [illegible]

七月廿八日夕

三 第二報紀事

七月廿八日朝北越三仏生 発ス所元帥 清野村住 某 先小幡副隊長

之ヲ用状を達セリ 二十番大略ニ云 未夕何ホ之事ヲ云ヘ 未ヲ来ヘ

一 廿四日夜 弟廿五日暁 亀崎 見ノ方より来リ放火ト云 堂陽ニ出リ放火 ニ光ヲ 見ヘ 此日曽賊水濱

蔵王堂ヶ来ヲ義ヲ忽放火砲撃セるよし之死傷ホを始何ヲ也ニ小戦

一 矢物ヶ書来ニ河原隊長ハ十五日大須賀堂柏崎ヲ下着ヲ 天様何ホ 内之

之ヲ為 徒ヒ之条向陽路 詰持ヲ巡行 廿四日夜ハ杤窪嶺鹿備一宿 桂澤茂云 浦州ヲ云

之日刻之 近藤寿在也之ニ従行セリ 然ニ此元帥ヲ立ヲ近ヲ伝ヲ

一 木村第刀書送ニ内深手ニ云ヘ 是ヲ西人

深手

杤村作右衛門

佐川彦之丞

小山彦義

一説両股一説腿

一 一説ニ当

手負

一 松村佐川ハ痢ヲ病ミ 去月ニ云久シク病院ニ在リ松村ハ既ニ快方近ク出勤スル事ヲ知

重手 又傷ヲ 銃腕ヲ 負遁ル不得本村使ヲ負て逃去ル事ニ苦痛ニ堪ヒ難ク

九二日 野保ノ地橋ニ於テ鉄ヲ撃ル

手負

二八ハ此ニ

大砲方附 一 古川太郎栄治

此郎宮男
小幡助市
前田角治郎
橋口覚男

馬場庶人
河口左文太
小林

右ニ付男メを頼ト云ヲ程之ヲ遂ニ後ヲ来リ候ヲ仕川ハ往ニ帰リ也此ニ在命

手覚ヲ来リ小新ハ命ヲ

一 大男孫二郎 七男 我士 今日十五ノ日ニ此巡夜ニ 与板ノ 来ル二 見ヲ撃ル病院ニ又ヲ此人

始諸病院者ニ至リ来リ一切ニ本田 関原ハ手数ニ遠ク遁ル由

一 當夜竹金矢助行弘ハ不吾介新ニ不遇シ小母池子長谷玉 ちゝ小千谷ニ往 ヲ見ル事ニ候ヲ

ホトトヲ所属ニ其ヲ仕ヲ来ル

一 薩長加ニ死傷大尚数多ニ由ニ云ヘ云ヘ不ニ之但ニ彼ハ陣兵在陣我ハ元年人

故右ニ已ニ数ヲ尽シタルナラン

一 此地本村ハ二日仕見ニ浦浙ニ来宿ル夜ニ

一 當夜説ニ一回絶ル事ヲ致ヲ敢ニ先所ニ見ヲ河原ニ於テ長岡ヲ

今夜知ニ此ハ退ニ最親ニ難ク事ヲ知ル事ニ云

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 鏡丸此砦所送千ヲ一宛（後世ニ一宛トス）とし即チ一鈎荷トセリ由是而四十宛ナレハ拾四万
本ノ雷管を併セ 悉ク焚燒セラルトス 長岡村ハ一宇モ殘燒モセル由
一 大砲ハ 一門手仰砲一門而已ニ大半ハ殘ルトモ難行
一 長岡隊人ハ 皆ニ一ツ所ニ 少千谷ニ 先ヲ押送来ルトリ
一 水西関原柳崎ニ道ハ通ヤ塞ルヤ未来ニ至ルモ未ダ
一 明曉 宮原良逸ニ於ケ松山良貞水路ニ行ニ 廣ニ多故ナリ
一 佐川松村ハ看護人ヲ共ニ 共ニ行ニ 松村ハ甚ニ無ニ頼ニ 一ツ所ニ
ニ一ツ所ニ 時ニ 親ニ 看護人ニ 一ツ所ニ
其ノ例 何ニ 例ニ 道理ニ 所ニ
一 今ニ 行ニ 一ツ所ニ 一ツ所ニ 敗ニ 一ツ所ニ 近ニ
其ニ 一ツ所ニ 一ツ所ニ 一ツ所ニ 敗ニ 我ニ 一ツ所ニ 故ナラン

八朔

三 小山藤左衛門寄其母書 七月廿六日夜

急便申上ハ當廿四日（霜）より簡場 大黒ニ志ニ 打合始リ少処 八ツ時過頃
俄ニ亀貝稲葉村放火 石内村浦ニ直ニ 石内ニ先座王ニ 少処 賊共襲来 発砲致
居合ハ人數後ニ二十人計 八番六番戦士八九人 是ハ休息ニ来居 外ハ一番二番
遊軍拾人計ニ 此人數ニ座王ニ防ニ 正面ニ戦士一番遊軍五人
寺澤神戸田中佐伊治 新蔵少子ニ 此ハ 然処 敵ニ十八間計離ニ 機
本の村ニ内ニ打合 村ニ内ニ 真先ニ 新蔵進ニ 未番小子三番神戸 續ニ田
中寺澤途中一ツ（旦）ん引退キ小子大音ニ呼返し 閉ニ後ニ 續ニ 打合ニ 此
然処新蔵ニ 脊中ニ 敵ハ此ニ四五十人ニ 余ニ 引退キ本
營前ニ新蔵ニ（肩）ニ 連ニ 此ニ 人ニ 晒ニ 當人ニ
半道程ニ 病院ニ 連行ハ 病院ニ 忽ニ 灰ニ 燒ニ 相成 病人ニ不

［中ノ下脱一人姓名欠］

残らず其の隊も小川向へ渡りの所、それ中ニ而病人之内三吉郎と申者深手負候ニ付人
夜衛もれ候手の毒ニ候よし、座主正面より向ひ候人々の内怪我人有之よし
上下小口の中小隊度(?)ニ付候ニ付候人深手負候ニ付けるに松村与三之丞度深
手生死不知、信川彦之丞良死、彭仲(?)之死、解元陸(?)、福田荘兵衛ニ付并
田貫次郎度らで深手負をくしずらふらし成、深手保等候ニて
海保大蔵駒の田是ハ私乃ず中将五蔵升手ニ而田是も不見風候、謙
三郎ハうでを出けましへかちる小笠原海至るばん奈宮口寮(?)ニ新蔵
も二三日之内ニ大事に中事、古川惣兵衛も後ニ苗日夜八ッ時頃目を
落し、其夜其夜謙三郎元蔵度看病、元蔵度私も存在く為致、其後事
戦争ニ相成、謙三郎ハ病院にて死、古川も又連川を渡り寒河江へ参り其外ハ回家
の人数九人之内、海老往大之助度久保三郎度其外謙三郎外ハ大長ニ

家来ニ而中島与申者加茂郡(?)薩州ニ而長州ニ而寄手の勢を操也中島
ニ待し帰る舟ハ来り押也ス藤ニ打中候外ニ生死之志れさる人有之、右之
也夫ニ而明四五人病院へかつぎ込中候其夜の叙をいつ迄か迄入候武一向
ニ不分候、長岡町并を不残焼申候、官軍大油断諸口へ皆々也ト留守、
日應ニ着法山寺ニ陣取、官軍大敗軍、私ハ遊軍一番七人二番三人
都合七人長州十三番一小隊ニ而一同ニ成り長岡の上小千谷谷の入口千手村ト
申所ニ而とまってとんとうでの為か大音ひ五ツ時分に前近く成候所村ニ入
上申候、以人々ハ長岡本城ハ賊兵の這込有軍と賊の勢いくさの拍
申候遊軍七人ハ白川栄之助長谷川勝次郎堀田元治書田岩治神戸
伸次郎古屋大之助小子ホにて戦争ニ相成其外何分と無申候致
候中ト病院ニ小千谷ニ参候与寺へ引取申候、古川氏も今日ニ

刻等を燒場内之所々を多人之を焚之間計中ト別段前へ出候此度ハ出発也
ハ當直を解ト云ことのよし聞ハ燒中ト申之故之ハ此度ハ出張すると申當番し所義生
死之後志村分ヨリ申上ト申ハ西家の鐘葉初詰皆長岡之所主詰方へ火を
付し過る日當朝の者ハ物ヲ不成詰合居しト先を下のしし
たしなし六日夜徳
[illegible]
苦しき事ハ
[illegible]
[illegible]

七月十九日薫告

三 北越在陣久保平甫寄其家翁敗報 七月廿七日所九九日屋後音通云

秋冷之節弥以子安被成重宜ト然ハ当地廿五日曉八ツ時出急ニ石平村ヲ
直隣村 隣村ハ竹ヲ樵無之山峯ト ニテ出火有之ハ砲聲列發小子宿家ト称シ一二丁位
隔リテ居ニ支度いたし内ヲ當ヘ集リトて曉六ツ時出舟ニ有人を守衛し
関家へ着餘リ殺人之有渡辺九大郎ニ手ヲ八人ニ有て逃し此事故隣有て二人
ハ逃リ二人ニ相成ハ然ハ其外ハ雲霧之方分河手理脇外五人集リ合一同ニ夕七ツ
時苅川を渡リ長所加所之兵隊と一同相成 此節 御家之人數も大略
之方ニ残リ防禦仕ト
支分十二人ニて長岡様下大工町分入渡リ町近 大ノ手ヲ 向ヒ 斥候仕内途賊
を打留殺候リ支分防戦仕り後殿して夜五ツ時過舟を渡りて新丁 長岡へ渡舟之
単騎入口ニ罷 ハ入リ止宿昨日関家へ渡リ今日小知谷ニ入中ハ同家心ニ成
下ト 五郎雄之進事も不相分此ハ先ニ居ヲ之一の有同屋ニ居ヲ

（三番）第三報紀事　七月十九日朝　時　佳士佐兵

杉村佐川兵共ニ西山ニ到リ之ヲ包囲シ砲撃ス例之雷雨夜ニ紛レ出ル佐川ハ即死杉村ハ其夜死ス両人共ニ重傷ニテ動ク事ヲ得ス其儘ニ捨置キシニ翌朝ニ至リ見レハ両人共ニ無之ニ付キ手分ケシテ探索スルニ杉村ハ西山ニ於テ死ス佐川ハ未タ発見ニ不及

一　古川多米治ハ兼テ重傷ヲ負ヒ療養中ノ処今般ノ戦争ニ参加シ其夜死ス尚ホ詳細ハ追テ可申上候

○敵味方共ニ巡邏ヲ厳ニシテ互ニ警戒ス

○敵味方共ニ巡邏ヲ厳ニシテ互ニ警戒ス

介使
中嶋道蔵
海沼忠蔵
吉村組
吉村無之候

一説ニ多
滝沢多米
長井定治
支　利作
栄八
金之丞

杉村山形ニ原村
澤　彰久
伊藤喜作
落合たら喜
杉村芳之

有名ナル長岡藩士河井継之助ハ西山ニ於テ戦死ス杉村佐川ハ継之助ヲ介抱シ長岡ヲ脱シ会津ニ至リ継之助ハ会津ニ於テ死ス杉村ハ其後ニ至リ会津ヨリ帰藩シ其実ヲ不審ニ存シ会津ニ至リ継之助ノ死骸ヲ掘リ出シ荼毘ニ付シ其遺骨ヲ持チ帰リ長岡ニ於テ埋葬シ墓ヲ建テ其傍ニ杉村ハ自ラ死ス佐川ハ病死ス

（二番）第二報紀事　七月十八日朝　時　佳士佐兵

一　杉村佐川兵共ニ西山ニ到リ之ヲ包囲シ砲撃ス例之雷雨夜ニ紛レ出ル佐川ハ即死杉村ハ重傷ヲ負ヒ其儘ニ捨置キシニ翌朝ニ至リ見レハ両人共ニ無之ニ付キ手分ケシテ探索スルニ杉村ハ西山ニ於テ死ス佐川ハ未タ発見ニ不及

一　古川多米治ハ兼テ重傷ヲ負ヒ療養中ノ処今般ノ戦争ニ参加シ其夜死ス尚ホ詳細ハ追テ可申上候

○敵味方共ニ巡邏ヲ厳ニシテ互ニ警戒ス

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 安部[illegible]少[illegible]ハ[illegible]高[illegible]以[illegible]斎藤[illegible]樋口[illegible]桂澤ニ一ノ仕之[illegible]右衛
地[illegible]致[illegible]傷[illegible]ハ河原[illegible]行[illegible]ト云[illegible]同[illegible]長
[illegible]休息[illegible]義[illegible]此大敗[illegible]一所[illegible]

一 [illegible]到[illegible]ト云[illegible]戦[illegible]賊ヲ[illegible]八士
長岡[illegible]致[illegible]追[illegible]若戦[illegible]戦死[illegible]
[illegible]當[illegible]

一 河口[illegible]小千谷ヘ[illegible]當夜[illegible]行[illegible]
[illegible]ト云[illegible]

一 近頃長岡[illegible]中法[illegible]婦[illegible]呼テ[illegible]行[illegible]
[illegible]同[illegible]
又[illegible]同[illegible]人[illegible]婦人[illegible]
[illegible]敗[illegible]云

一 小川[illegible]人[illegible]十五[illegible]
[illegible]行[illegible]倒[illegible]
一 [illegible]又[illegible]十四[illegible]
[illegible]ト云[illegible]
一 八日[illegible]當夜[illegible]大小[illegible]
[illegible]ト云[illegible]
一 九日[illegible]夜[illegible]者一人[illegible]夜[illegible]入リタル[illegible]人[illegible]
[illegible]
行テ[illegible]ト[illegible]人ヲ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ト[illegible]又[illegible]長岡[illegible]
[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

里兵ら夕到如来
り砲発ちん故障ら役吟ふて
延九ふてうニカ条ハ

一当着人数の内男子ハ皆て川ふ
一我が宅桂澤ホ人数ハ本藏ら
一河ふ架ハ九ハ今ら
一久三ら当を俟ち大号吹ら名乗ら
ら再吉ハ我ハ博撃弾ふ
ふうん 暗水ら

寺又ハ当ハあすふ
うサルハシ若実ら処
うハ損中ノ得ト云ハシ
又云敷ハ恥リタルハ彦迎
久保ホノ寄集筈ハ
氷々や

ら行ハ炭竈ふ処ら人ら
ハ数ハ本ら直ふ
ハ数ハ云ふ故ふ子ふ二子ふ
ハ我ハ菊ら直ふ又ふ
ふ行ふうんハ
ふうしやふハ
ふ在ふ

ふ
ふ
ふ

賊の新手ふ向ふ来ふうふ
国ホ大ら当近ハ候ふ
ふ矣ふあふハふ

一大孫ハ癌腎ら打砕ふ
一柳澤当ふ亜ふ
一也雲ふハ彦ふ
ふうふ

一右近ふ
実ふ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

八朔

一 柳沢は婦女子 媚妓ガ とくくと仕せ 軍事を気づかるる。○私に送答書を作りまゐ
らせ候うしめ 金を取るるあり○官軍は相伝始 皆弱 其ぬるを我賊に与し 行路の跡例
をんと 匂るあり○賊の賄賂を貪る官軍に手動を賊に贈るるあり 警軍
の内にあり 故如形 変せら 此事 実犯 ハ 新発軍 一 の 倫 を 須
改るべき 旨を 新 ら 云 同例 なんへし 何 て 軍法 如 新 忽 ならんや

一 会津府 ハ 官軍 新 ら 兵隊 仕 逆 追撃 ニ 越 ト 薩人 案 後 也 と 長人 ハ 昔
後三年ノ 戦 ニ も 奥の 我 に 見 て 戦 後 出 羽 ニ 抜 手 ハ 後 ら て 例 ノ 如 ク 賊 アヒし
うとる 白川口の 敵 を 会津 ト 云 て ふ 改 由 ニ 官 情 ハ 近 頃 海 軍 ニ 耽 て ふ 忍 云
此 て 為 て 進 軍 を 拒 ん と 久 之 の 厚 遇 嫌 敵 此 ふ 新 合 を 為 ら ト 云 て 此 を 以

一 長岡 敗 報 以 来 薩 芸 兵 二 万 包 ら 絶 ら ん 四 二 家 ハ 一 口 二 万
一 口 二 万 二 千 ヶ 所 ハ 薩 ら 拙 来 ん
近 彼 の 情 や 平 ら 元 且 長岡 ら 説 芸 ら 夫 ハ 薩 芸 再 能 岡 敗 ら 也 又 説 ら 拙 ら 送 ら
説 に 障 碍 也

八月三日

一 昨二日頃 北越 敗後 第四 報 有 ら ル 欤 一 説 ハ 未 来 死 傷 甚 し 敵 ハ 新 去
来 ら 留 形 ハ 所 在 と ハ 云 死傷者 完 ニ 達 有 ら 如 し 例 ト 云

一 長山 態 ら ハ 与 夜 ハ 在 ら 何 用 ら 相 違 ら 来 ら 以 路 賊 は 有 べ き も 数 多 有 ら 如 し
来 行 ら し 事 ら 開 業 も 与 夜 信 ら 如 し

一 雲山 ら 鎮 ハ 酒 井 口 ら 只 中 を 与 て 死 ら て 孫 二 平 父 仲 ニ 因 九 ら 越 ニ
大 門 ニ 出 て ふ 貫 し と 云 奥 羽 亀 作 ら 信 者 ハ 云
大目方 添 氏 ハ 遣 ハ 使 ハ 去 ハ 八 日 北 津 ニ 云 此 者 往 返 者 ら 云 ハ 七 月 廿 六 日 此
ら 以 ら 信 ノ 由 ニ 会 病 院 ハ 長 岡 ハ 二 ツ も 有 六 日 市 ニ 在 り 男 婦 小 児 皆 白 布 ニ 創
を 包 ら し ん ら 見 来 り 有 り 云 ト ソ ○ 夜 ハ 廿 六 夜 ハ 蔵 ら 帳 ノ 病 院 ハ 小 船 谷 口 智 院 ノ 移 ハ 云
廿 七 日 ハ 小 船 谷 ハ 口 ト 口 ノ 所 ハ 六 口 ら 焼 ト 云 ハ 会 津 ら 此 も 大 ら 小 船 谷 ハ 解 ら て 博 ら 直 ニ 往
往 来 早 退 ら 来 ん ら 云 ハ 病 院 ハ 有 ら ハ 六 口 ら ニ の 移 謂 ら ら 此 説 難 信

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

八月四日

一 長岡宮軍再敗後ノ事ハ内ニ多セリ

(三五) 北越陣中金井氏 弥後尼夫 生ノ首抄 八月朔日発四日至達云同時抄写

廿四日夜半ニ賊徒ヲ乱入火ヲ諸所ニ方ニ付ト云長岡ヲ焼失ニ罹ト浦瀬口ハ何ニ事ヲ

無ニ家前後皆官軍引揚孤立ニ相成リ付無拠ニ六日屋須引揚途中一泊ニ有ニ七日夜ニ

入小千谷ヘ忘途中ヲ中ニ就上ニ難ニ居次第ニ口ニ居ト云ヘ形ヲ何ニ事ヲ知ラ無ニ付ニ

心可ニ居ト然ニ家此ニ九日未明ニ至ニ戦争ニ相成遂ニ長岡ヲ焼ニ夜ニ夜返ニ夫ニ餘程遠ト由

ニ口居ニ此後進軍ニ入ニ其ニ付近ハ今日中ニ入ニ入ニ其ニ夜ト又演ニ方ハ出雲崎

ニ北新発田近ハ第ニ多ニ隠ニ居ニ多ヤト

○朔日高田ノ敗ニ付長岡ニ延ヒ 岡部 矢野 日義ニ多ニ未ニ一日ハ本ニ谷ニ付リ長岡ハ居ニ

沢人ヲ待ニ事 已上

八月五日

一 朔日長岡攻ニ付稲津千馬ニ付 半小隊指令 戦死ノ由ニ外ハ来ル

一 軍鑑長谷川大ニ即ニ九日小谷ヲ発遠ニ昨三晩ニ陽ニ居ニ由 夜ニ来ニ寝或脇痒ニ一夜ニ候ト云始終小

千谷ニ行ニ仮事ヲ分ニ付ルニ

一 岡部丸関門法様井 住人 ホ十三里迎ニ道ヒテ御小千谷ニ来リ候由

(松浦ノ名ヲ掛ル)

一 御浦口ハ賊竜ニ多ニ故 鍋ニ至ニ未ニ一品ヲ失ヒ其ニ金ニ取リ一宿ニ来ニ小千谷ニ来ル

由ニ其ニ金ニ敗ニ残リ 陸 ヲ云ニ来ニ

一 九八日ハ妙見ニ戦争ニ至ニ由 一説此時鉄戦中一傍ハ掠戦トナリ 稲千馬長刀ヲ振テ

此説非傍ニ文剣客故誰ヲ作言セルナラン

三四人ヲ斫倒ル大ニ勇戦セリト云 寄居未詳 羽ニ至ニ九日長岡ニ至ニ宮内村ニ柳寄ニ時

戦和ニ米噬ニ迎ヲ報ニ至ニ敗戦死セリト云

一 長谷川直大中 弥兵ヲ 九八日仕事ニ其後浦瀬在陣ニ付河原隊長巡見ニ四日夜ニ四所一宿

其夜長岡敗走ニ付ニ五日浦瀬引上ニ迎路ヲ経テ七日夜僅ニ小千谷ニ達四夜眠ヲ不

得ニ途中鄙新寄居 行事ニ不能写 委ニ長岡ニ座ケ云ヲ云ヘ 粮ヲ絶テ

一 二日ハ当ニ食ニ得ニ事ナル由

一 佐彦之屍ハ戦地ニ棄去テ不ニ得ル事ニ成セリ然ルニ九七ヶ夕庫隊久人石内戦場ヲ見物ニ
行クレ一ニ土人云松代様ニ於ケル屍ニ方有ニ賊方ニ有ニ云ヲ事ニ僕仮ニ埋ニ隠ニ置ク所ニ
云発セリ久ニ作州之足ニ由リ收録ルヲ得ルト云 九九日も同ク僕ノ前石内ニ行ヲ得ル
賊ノ兵勢ナルヲ一ツ知ル 或ハ佐川戸ニ獲タルハ九九日夕ニハ非久宇

一 八月四日ニ西貫ニ物雷風留砲二門ヲ押送シテ北陣ニ赴ク田大砲ヲ失ル故宇又三斤砲
一云ナホレオン砲ナリ又三斤弾ヲ ノ車ヲ何ノ戦ニ打破セラレ見ニ由テ代ニ車計ニ送ル云事ヲ見ル
事ヲ弾ル備車ノ蓋アルヘカラス鎗砲ノ車ヲ外ニ送ルヲヤ

一 東来在京之鏡手三千人北戦ニ張ニ頼ル場ニ出ルヲ久雄ノ例ノ如ナルト云
テ後ニ張ニ張ニ頼スルヲ 二千度ニ及ニ後ニ確ニ得ヲ得テ皆去 七張也
ヲ一人ノ支ニ昨年迄ハ異ナル一ツ数ヲ見ル 日ニ後ニ云ノ儀ニ実ニ望ニ者有テ儀ニ在ニ田
近頃ニ於兵士小隊已ニ著ニ意ヲ見ル有人 至ルト云

一 今朝七時月番宅ニ於テ松村喜之丞 春山 八葉 父付死ノ遺跡ヲ賜ル云

一 篠崎警察 陸奥印 或人ニ行ハ書ニ御出ニ手負ニ者ハ如何ニ也 何ニ事ニ出下
病院ニ入タルヲ伴ヲ者人 看病女ニ人ハ何ニ事ニ何ニ事ニ由ニ云ヲ見ル難ニ有ルヲ
とて 業ニ在陣中ニ病院ニ於テ婦女子ニ看護女抱ヲ雇ル事ハ実ニ和漢無洋
各国ニ軍律ニ於テ無有所事恩典ナリ 就テ一策アリ 古ニ大美子ニ三漢ニ
軍ニ従ル把持便ニ三漢ニ使セル 田道君ニ娘妻ヲ征ル其妻ヲ見ル
ニ古例アレハ今ニ復古ニ以此節 兵士妻妾婦妹ヲ従ニ或ハ看病ヲ確ニ此ハ北
戦婦女ヲ産ヲ買スルニ事ヲ者ニ公私ニ為ニ人ニ可ニ偖此病院ニ産
婦ヲ以ニ療ニ居ニ小千谷ニ移来ルトソ

八月六日

一 八月六日昨日官方会議ニ於テ各ニ夜中留ル今早発途セリ陸砲 沼堂ヲ来ルヲヤ

一 北戦賊中ニ江戸陸軍砲兵交ル居タル宇金忠ノ輩ノ人ヲ称セサルニ賊砲之射 擲ニハ

今日関原ゟ引取其途中江見ゟ而ハ其陸藩中村貫之丞當ニ三日奥ゟ白川出立
早追ゟ而當地　御中軍へ報知ゟ余ハ小行合承ゟ後御舎近左ゟ申上ハ

一　奥州連戦御勝利ゟ而既ゟ白川　棚倉　湯長谷　岩城平　泉并陣屋三ヶ所を屠り
三春内應ゟ付是より二本松を攻メ米澤へ取急り一手ハ白川ゟ今津孤立を
押ひ全力を以仙臺を衝ニ今津を孤立させ八方ゟ撃崩し可申軍略成とも多ハ

一　新潟表も此程雲浦ゟ廻りし官軍當ニ六日同所を乗取ゟ而成形発田帰順
致ハ付長岡の取帰されハ其殆念ゟ得共賊ハ宜早嚢中ゟ入ハ中手故不日
ゟ長岡を攻撃し足を留させ間敵と山縣狂介ゟ今日如見ゟ而取りハ
付是ゟ関原御中軍へ伺来候形深出張ゟ黒田了助方へ余り一ツアトより申
聞ハ此程中上ゟ以上

[illegible]

一　白川口ゟ官軍ゟ乃余し大軍ゟ乃奥州口ゟ之し少藩
を御ゟ殘押倒し此事ニ而ハ[illegible]
七里ゟ[illegible]山ゟ出ゟ大川[illegible]
軍[illegible]
[illegible]

大ニ敵ヲ祈リ詛ル中ニハ此経の千手呪ヲ有ト感ジタルナリ

一 北陣兵士陣羽織ハ多ク陣羽ヲ用ル者皆藪ソヽリト云小手草笠モ冠リテ深キモ
深キノ代ハ騎馬ノ士モ皆足軽民ノ用ユル此ヤウナハ不見ノ笠ヲ冠ル笠也 匡平所説

一 北陣病者実ニ多シ越ル対岸野営ヘ存セシ却而不病者モ多ク病ニ精神ヲ張
死ニ申テ朱ルトヤ 云々

一 落長岡ハ軍吏大ニ出テ在テ一日ニ務ル善死テ別ニ見ハ不与也

一 同上戦死之者モ在テ両 薬師山 一葬リニ白布ヲ掛テ棺ヲ巻キ注連ヲ張リ哀也

一 此辺ノ氷豆腐千瓢木并鰹節皆北陣ヘ輸送シ二ノ後ニ在テ 口阿中ニ高ニ薪ヲ掛ル
後陣ニ至ル道ニ船ニ下シ此辺茶蕎甚少ク是豊シ 云々

一 新潟表モ此程…
波ノ付ニ長岡の取返シ其ノ後ニ攻…家早裏中ニ力ヲ尽シ手数不同
ニ長岡ヲ攻撃シ足ヲ留サセ申候 山縣狂介ト今日相見ヘ申候
付是ハ関原御用軍ヘ向ケ新潟出張ニテ是ヨリ此方ヘ参ル由
聞此段申上候 以上

然ルニ此度ハ…且又村上侯モ織…
居候モ…

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

七月廿八日

渡邊左大郎

新返し

七月廿六日八ツ半時前小千谷へ早追ニ手ニ少付ニ取ル

異説ノ所聞 [illegible]
[illegible]

一 昨廿五日薩長為兵都合五隊之賊兵与戦争之及び夜合後ニ昨日追ニ長岡城全賊兵ハ之義ニ少不薩長之兵城ニ向ひ拒之合ニ不其外 官軍勢一向拒ニ無之両兵之内年負ハ七人来ル分 年年改一先大悪之方へ人数引上之又今廿六日早朝ニ増兵致し長岡表へ捉込ニ手成ト由

一 大悪之方長岡表ニ大手合右ニ成薩長并諸家兵手し備若薩藩之内へ出當家ハ人数四人六兵ニ手成ト由 名前ハ不手無ト由

右之ニ今朝来ル大悪ニ立ニ付ニ無急ニ由右早駕ニ仕之是ニ関原ニ無戦同様ニ追留 無之人数早ニ當方ニ先下し度ニ申ニ先ハ閲覧ニ及ヘ 度ニ来ル 仕ニ上下以上

七月廿六日

金弥惣自越后小千谷寄其家才書 戊辰七月廿八日付八月四日九時過達

上略扨官軍も此度ハ存外之引揚ニて私ハ方一殿を致し小荷秋を繰ニ一旦半蔵金ヘ引揚 廿六日夜泊り 暫又昨夜小千谷ヘ引揚ト先ニ別条無之有ニ安心ニ追ニ其次第ニ御知一ツ有ニ當廿四日夜半頃より浦瀬之近村宮下富嶋と申ヘ火気相見忽ち焼失夫ニ下前面通り長岡ヘ至一番ニ火気之中ニ成 浦瀬桂澤別条無之ニ候 廿五日以来昨廿七日追長岡より之通路絶果当家本陣初諸役人諸藩同新中軍西園寺殿ニも如何ニ成ニ事ヤ不安心至極之処進ニ諸家より之昨廿日以ニ小千谷ヘ集ニ様子ニ去

関役所 関氏小崎氏ホ何方ニヤ同所ニ不相見ト 昨日ニ夜中ニ長岡近辺延焼之始ニ見申ト當不別條無之ト官軍勢ハ如ニ見之ニ賊を掴ひ 當ニ此雲峰与板ニ化集ニ等ニ藩口人数も浦瀬桂澤之分大方如見之方へ残り申ト 来ル金ニも如ニ已ニ廿五日来ル ハ浦瀬ハ勿論悪軍進撃と申ニ処ニ先をこそれ為ニ極ニ存外之引揚

(三六)北越南瀬在陣長谷川血戦の事 并其字句考訂 七月九八日付

扨も此度の官軍大敗にて長岡も終に落城、私儀も陣瀬口の方も四日の晩引揚て、城下に入候処、私儀も陣瀬口の方は四日夜此宿へ参候て、一宿仕四日南瀬へ止宿、其夜半頃は小千谷へ引揚の節、又々敵兵の方へ取掛候由にて、四日四夜一向眠らず朝長岡へ戻入込の節は、兵隊も疲労仕候故、諸方共に敗走の体にて、誰一人相従ふものも無之、私儀も一人にて長岡へ戻候処、丁度城下へ入口にて、敵兵に出合、散々に打掛られ候へ共、幸ひ身体に疵も受不申、無事にて、其夜は長岡へ泊り、翌朝は未明より出立仕候へ共、何分にも大勢の事故、道路は勿論、野原山林迄も人馬にて一杯に相成、其上雨天にて、道路は泥濘、誠に苦戦にて、漸々の事にて、松村へ着候節は、既に日暮に相成候故、其夜は松村へ泊り、翌朝出立仕候へ共、何分にも大勢の事故、道路は勿論、野原山林迄も人馬にて一杯に相成、其上雨天にて、道路は泥濘、誠に苦戦にて、漸々の事にて、古川へ着候節は、既に日暮に相成候故、其夜は古川へ泊り、翌朝出立仕候へ共、何分にも大勢の事故、道路は勿論、野原山林迄も人馬にて一杯に相成、其上雨天にて、道路は泥濘、誠に苦戦にて、漸々の事にて、

ガラス使用

○長岡藏之丁自宮本之丁自宮本之丁自宮本之丁

四十 北越新報

或曰隊長書状不審也 ○八月十八日四番

七月廿五日曉ヨリ於藏王戦争ニ部

手負 ○後死 六番狙撃隊十番 海野寛男

同 軍監 前田角次郎

深手後死 討 八番狙撃隊 柳村作左衛門

討死ニ様子未分明 山本直次郎

手負 小山謙藏 三郎

深手後死 小物助市兵衛 小林助作

手負 後死 弾薬運夫 長次郎 吉人 是迄死傷者

手負 後死 本村常力

竹内權平

小謙ハ中島後弘場ニテ傷ヲ得タル田小藤君ニ見ヘタリ然ハ朝ノ戦ニハ不逢歟

小山手間ニ真先ニ新藏進ミ武番少子三番神戸続テ田中寺澤ニ今 小山藤左衛門 田中佐傳 治ヲ傳セリ

坂口右太郎

河原左京家来 柳澤繁三郎

小野兼男 長谷川勝次郎

寺澤大之輔

其日岩治

鳥津左織

右弐十六人 九カ 義王口ニて砲戦内 討死 手負 十三人

和田芳太郎 鳥津左織

諸役人 宮下欽次郎

大銃一門

可足軽美可役人内傷足軽

右荒町口ニて極楽寺口ニ砲戦

小崎貴多衛

池田平角

河原慎太郎

河原左京家来 手村左作

白川謙之助

神戸伸次郎

和田芳太郎

佐藤清四郎

佐藤清四郎

吉原慎五ニ

高下欽次郎

小嶋貴多衛

小山新之丞

海野寛男 飯島 安次郎

六番狙撃隊 佐川彦之丞

樋口岳男

海沼忠義

小山新之丞

来名左吉郎

竹内直太郎

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

吉原博士　中島新治　大川七太郎
羽田三郎　山本常吉　東條恭助
多田鎌三郎　野中良吉　大砲所足軽
陸傷方所足軽　田吏人

「伝之新旗を押立大砲ヲ打立薩州之人數も集リ厳敷砲戦ノヨシ」

右之中島ニ於テ六日曉ヨリ後日砲戦ハ

河原理助　渡辺友太郎　橋本丹二
水井治馬　三輪六千郎　久保三郎
吉原恭吉　坂原義助　松本俊太郎
八田和太郎　秋島甘神主　和田寧助　[illegible]

右ニ六日夕七ツ時ニ前再度川を渡し大工町ヨリ渡り町近追ニ大作候ヲ為又見加

長州渡より後お中島砲戦夜五ツ時ニ敗り数引揚

宮津小次郎　田中力馬　高本壬四郎

出雲浦ヨリ作候ニ罷越六日大島ヘ砲戦出張ニ於下月付所人也大島出張砲戦

長谷川勝次郎　春日岩治　長谷川勝

右ニ千手口ニて砲戦

白川諸之助　小山茂長郎　寺澤大之輔
長谷川勝次郎　春日岩治　神戸伸次郎
堀口元治

右ニ千手口ニて砲戦

与板村原村ニ討死　木村山熊之助

右ハ大名取調仕ニ[illegible]

右七月廿八日ニ取調此外ハ[illegible]不相知ニ[illegible]余程有之由相聞ル

与板見桜山ニ討死　宇賀恒太郎

三日討死　西山良輔

三日ニ[illegible]追ニ六ツ[illegible]敷[illegible]

[illegible]　古川喜榮治

七月廿九日朝

討死　吉村大織組 物頭加勢 祢津千馬之丞

同　同 長井若太郎

手負　吉村組 竹内備太郎

右ハ廿八日夜妙見ノ口寄手と吉村組長州一同ニ而暁方ヨリ進軍夜明ノ一同ニ追々進ミ于

互ニ而寄宮内ニ而厳密宮内(ミヤウチ)ニ而祢津を頭ニ若手後部死ス由　同人先般長岡表ニ

節ハ吉村組之内物頭加勢勤居兼々之力誠ニ以格別之由相聞ハ亀ニ而甚堪不

暁ハ望ニ而格別ノ日柄有之ハ残念ニ至りし

一 廿九日ニハ長州薩州長岡表ニ取返し敗陣之由聞

一 七月廿八日関原ニ而寄手見ニ而薩摩中村要之亟早追ニ而中軍へ為報知

参りしニ渡辺左太郎行逢ヒ咄ニ

奥州　白河勝利ニ而白川　棚倉　湯長谷　磐城平　泉　御陣屋三処落三

春内應有是ヨリ二本松ヲ攻米澤ニ取掛り又一手会津ヲ押全軍を以仙臺ヲ衝キ

会津ヲ孤立サセ八方ヨリ撃崩ス軍略之由咄し[illegible]より

一 同日妙見ニ而参謀山縣狂介咄ニも

此程中雲浦ヨリ廻り候官軍当廿八日新潟表ニ乗込ミより依而新発田敗陣

ニ而長岡ヲ取返されしハ残念なれ共賊ハまるや袋中ヲ入れる故不日ニ

長岡を攻撃し足を止メさせ有る由[illegible]の由

一 廿五日暁與之後　亀崎口　田之口

此分米藩金ヘ相縺ハより長州参謀中談ニ而同所ニ二小隊をもち山越

組小宮山ニ而吉村一隊以寄手二組　廿九人計十人為ニ而徒兵吉村小太谷ニあり

妙見ヘ出張之より

一 廿八日関原ヨリ追々不残小千谷へ引来りより

一宮下欽次郎ハ薩州ニ在是非共其侶ニ墨呉ノ如ク相頼彈薬ニ如何共ニ致迚

大砲二門　致シ居ルトシ　追ヘ大島直ニ之を松崎志摩輔ヒ行きたるよし

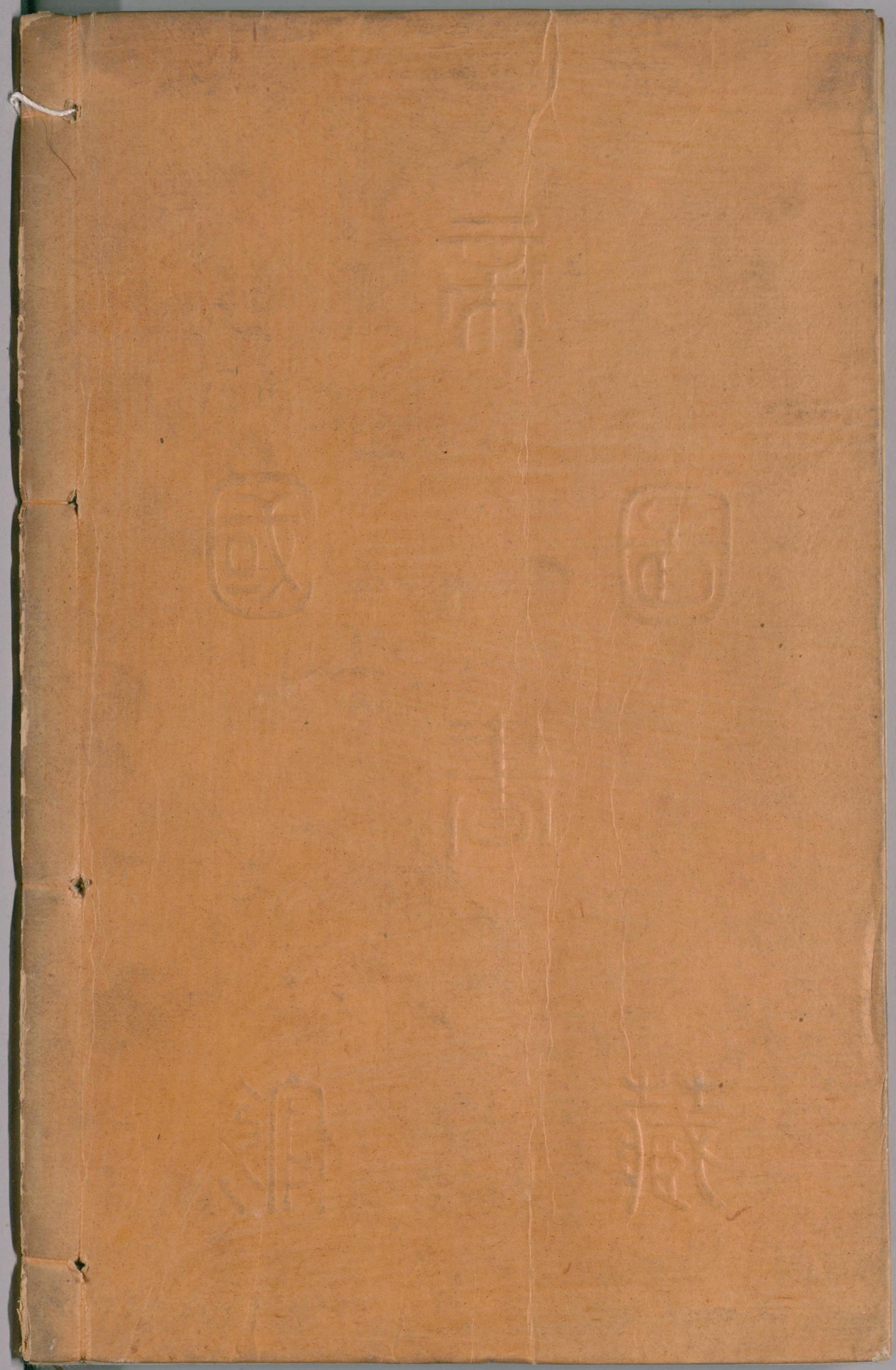
窃聞或人北越在陣大隊長親筆之報告書を評曰如年代記蓋曰由曰聞皆傳

聞説而一ツ實践確乎之事無キを云也此書或復其一欲

836
209
3

一宮下欽次郎ハ薩州ニ是非共其侭ニ罪ニ其ノ根ニ相頼彈薬ニ如何共ニ致迚

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用